平成26年第4回基山町議会（定例会）会議録（第2日）						
招集年月日	平成26年12月4日					
招集の場所	基山町議会議場					
開閉会日時	開会	平成26年12月5日	9時00分	議長	鳥飼勝美	
及び宣告	散会	平成26年12月5日	15時30分	議長	鳥飼勝美	
応（不応） 招議員及び 出席並びに 欠席議員 出席12名 欠席0名 欠員1名	議席番号	氏名	出席等の別	議席番号	氏名	出席等の別
	1番	神前輔行	出	7番	後藤信八	出
	2番	久保山義明	出	8番	大山勝代	出
	3番	牧菌綾子	出	10番	品川義則	出
	4番	木村照夫	出	11番	林博文	出
	5番	河野保久	出	12番	松石信男	出
	6番	重松一徳	出	13番	鳥飼勝美	出
会議録署名議員		1番	神前輔行		2番	久保山義明
職務のため議場に出席した者の職氏名		(事務局長) 鶴田しのぶ		(係長) 藤田和彦		(書記) 埋金晴代
地方自治法 第121条 第1項に より説明の ため出席 した者の 職氏名	町長	小森純一		こども課長	内山十郎	
	副町長	松田一也		健康福祉課長	熊本弘樹	
	教育長	大串和人		農林環境課長	松雪靖弘	
	総務課長	酒井英良		まちづくり推進課長	天本正弘	
	企画政策課長	木村司		会計管理者	天本政人	
	財政課長	城本好昭		教育学習課長	原博文	
	税務住民課長	鶴田勝美				
議事日程	別紙のとおり					
会議に付した事件	別紙のとおり					
会議の経過	別紙のとおり					

会議に付した事件

日程第1

一般質問

1. 牧 菌 綾 子
 - (1) 消防・防災の地域への体制強化について
 - (2) 防犯灯の整備状況は

2. 重 松 一 徳
 - (1) 区公民館を活用してのまちづくり、高齢者福祉、子育て支援について

3. 神 前 輔 行
 - (1) 駅前開発について
 - (2) 放課後児童クラブについて
 - (3) 基山町障害者基本計画策定について

4. 久保山 義 明
 - (1) 公共施設等総合管理計画について
 - (2) 空き家等対策の推進について

5. 大 山 勝 代
 - (1) 機構改革と情報公開等について
 - (2) 教職員の多忙化解消について

～午前9時 開議～

○議長（鳥飼勝美君）

ただいまの出席議員数は12名で定足数に達しておりますので、本日の会議は成立いたしました。

これより直ちに開議します。

日程第1 一般質問

○議長（鳥飼勝美君）

日程第1. 一般質問を議題とします。

最初に、牧菌綾子議員の一般質問を行います。牧菌綾子議員。

○3番（牧菌綾子君）（登壇）

おはようございます。本日、朝早くからの傍聴ありがとうございます。3番議員の牧菌です。12月議会は休日開催ということで、仕事の都合上傍聴に足を運ぶことのない住民の方にも、議員のどんな質問に対し町としてどう向き合っていくのか、それを知ってもらう機会になればと思います。

今回は、10月に視察に行った愛媛県砥部町で自主防災の取り組みについて現状を勉強させていただきました。また、11月22日に起きた長野県を中心とした地震で白馬村の様子がテレビで映し出され、まさに今回質問しようと思っていた、高い地域力による助け合いにより人的被害がなかった様子を見ることになりました。厚生産業常任委員になって偶然視察に訪れた、素晴らしい景色の村でしたので、複雑な思いでニュースを見ました。今後の基山町の安心・安全なまちづくりにプラスになると思う点を中心に質問をさせていただきます。

1、消防防災の地域への体制強化について、(1)災害発生時における相互支援及び協力等を目的とした自主防災組織についてどういう認識を持っているのか。(2)現在の地域防災無線の形態に変更等はないのか。(3)消防団員の確保と消防団の活動状況において、ここ数年での変化等はあるのか。

次に、けやき台のほうで若い女の子が駅から帰宅の際に夜道が暗くて怖いという声を耳にしておりました。若くなくても暗い夜道は避けたいものですが、ほかの区ではどうなのか。町の防犯灯の整備の進捗状況も含め、今後の計画についてお尋ねをいたします。

2、防犯灯の整備状況は。(1)各区の地域担当職員がまとめたアンケート調査の結果に防犯についての要望や意見等があったのか。(2)防犯灯を設置する際の判断基準となる内容を

定めたものがあるのか。(3)防犯灯の整備への取り組みについて、基本的にどう考えているのか。

これで1回目の質問を終わります。御答弁よろしくお願ひいたします。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）（登壇）

皆さんおはようございます。牧菌綾子議員の一般質問にお答えをいたします。

まず1項目めでございます。消防防災の地域への体制強化についてということです。(1)災害発生時における相互支援及び協力等を目的とした自主防災組織について、どういう認識を持っているかというお尋ねです。

多くの犠牲を出した阪神・淡路大震災では、瓦れきの下から救出された人のうち8割が家族や近所の住民などによって救出されております。また、地域ぐるみの消火活動により火災の拡大を食い止めたことなども報告されております。このように、ふだんから支え合う関係が大規模災害における犠牲を最小限にするため、地域の住民により組織される自主防災組織による共助の地域防災力が大きな役割を果たしております。災害の被害を抑えるためには、災害情報の迅速な収集、伝達が必要になり、町や消防機関などと住民間の災害情報を共有することにより、救出・救護活動、避難誘導、避難所の開設、運営などの効率的な活動をすることができます。このため、近隣の自主防災組織との相互の応援協力体制や行政、消防などとの連携が必要であると認識をいたしております。

(2)でございます。現在の地域防災無線の形態に変更はないのかということです。非常災害時において住民の生命、財産を守るために災害情報を迅速かつ的確に伝達するため、平成19年度に同報系防災行政無線を整備し、平成20年度から運用しております。この防災行政無線につきましては、形態等の変更は考えておりません。

(3)消防団員の確保と消防団の活動において、ここ数年での変化等はあるかということです。基山町消防団につきましては、消防団員の確保が難しくなっている地域が生じていることや、勤務先が町外となっている団員が多く、昼間の火災出動団員が少数となっているところもあり、昼間の火災対策が課題となっております。

消防団の確保対策につきましては、平成25年度から町内に勤務する町外居住者の方の居住制限の緩和、平成27年度からは、二十以上から18歳以上の方とする入団年齢の緩和をいたし

ております。また、佐賀県の消防団確保対策において実施されております消防団PR事業により、テレビ、新聞を利用し消防団の必要性や重要性等についてPRされており、本町消防団もテレビ、新聞でのPRを行い消防団のイメージアップを図っております。

2項目め、防犯灯の整備状況でございます。(1)各区の地域担当職員がまとめたアンケート調査の結果に、防犯についての要望や意見等はあったかというお尋ねです。各区でさまざまな問題が上がっておりますが、防犯関係では、防犯灯や街灯の要望、区内パトロールの検討、高齢者に対する防犯及び児童の通学の安全確保の問題等が上がっております。

次に、(2)でございます。防犯灯を設置する際の判断基準となる内容を定めたものがあるかということです。明確な設置基準は設けておりません。町民の皆様からまちづくり提案書を提出していただいております、基本的な考え方は、集落内行きどまり道路以外については町で対応し、現地を精査して設置しております。

(3)防犯灯の整備への取り組みについて、基本的にどう考えておるかということですが、新規設置の器具につきましては、今後、LED蛍光灯を今、採用しておりますし、また、既存の蛍光灯が故障した場合にはLED蛍光灯で更新しております。今後もLED化を進めていく考えでございます。

以上でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

では、2回目以降の質問をさせていただきます。

議員になってすぐの新人研修の折、総務課の事務分掌として消防、防災及び国民保護法に関することという項目に、国の支援等で防災無線で行うというふうに自分はメモをしていたのですが、具体的にどこまでの関連性があるのかよくわかりませんでした。そこで、「国民保護法と地方公共団体、消防」という総務省が出しているものを読みましたが、自分の住む町、地域で、また、エリアを限定して考えると、自主防災組織を強化しておくことが必要と感じました。挨拶の最初に言いましたように、砥部町では組織の連絡協議会を立ち上げ、平成25年6月から組織運営が始まっております。そこで、まず1の質問をいたしました。砥部町でも特に大きな災害があつて取り組んだということではないということでしたが、ことのように不順な天候で、町なかでも竜巻が起こったことを思うと、災害時の対応への準備、

災害の後の協力体制も、あるとないとでは大きな違いがあるというのは言うまでもないことです。

そこで、現在17の区に自治会があり、地域コミュニティが安心・安全なまちづくりを考える上でも重要な役割を果たしているわけですが、基山町の現状は体制としてどう整っていますでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

自主防災組織につきましては、地域住民が強制的にするものではなく、自発的な参加意識の中から無理せず継続的に参加できるというようなことで形成されるものというふうに私も認識しております。この自主防災組織によって、皆さんで共助によって被害を最小化することが大きな目的ではないかというふうに思っております。

基山町においては、この自主防災組織の発足のきっかけづくりを行うために、平成21年度に各区に自主防災組織の結成に向けて働きかけを行っております。この働きかけによって、1区から17区におきまして自主防災組織が結成をされております。その中で、各区において自主防災組織が結成され、活動を行っているということでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

では、現在立ち上がってやっているということは、その世帯数をそのまま1区から17区で、そのままの形でやっているということでしょうか。確認ですが。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

各区で1区から17区まで組織化されておりますので、自主防災組織ですので、その形態というのははっきりわかりませんが、認識としては全区民で組織されているというふうには思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

人数的なことを確認したのは、今回行きました砥部町のほうでは、基山町が福岡県のベッドタウンのように言われたように、砥部町も松山市のベッドタウンとして人口がふえ、現在が約2万2,000人、そして、ここの防災組織運営の形態というのが、小中学校の校区をワンブロックとして4つブロックがあって、そこに各副会長を置き、それを束ねる形で会長を置いて連絡協議会が構成をされております。そして、その自主防災組織連絡協議会が町の消防団と連携をとるようになっており、組織の数は現在54、そして、区の自治会長がこの組織をまとめる形をとってあります。基山町が17区でしたので、その点、数に大きな差がありましたので、あれはどういうことかとお尋ねいたしましたら、1組織は大体世帯数を100前後にして活動運営をしているからということでした。なので、現在の17の区でこのような活動が可能になるのかなということでお尋ねをいたしました。

こちらのほうのそういう考えでフットワークよく活動されていますが、今現在の21年から働きかけて、でき上がっているとおっしゃいましたけど、その点、どういうふうと比較して思われますでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

基山町においては、先ほど申しましたように、自主防災組織が災害の最小化ということには大変大きな力を発揮するということで、自主防災組織の設置をお願いして今、結成されているところでございます。

自主防災組織については、基山町には17区ございますので、各区ごとにつくっていただくということで、そういう働きかけを行っているところでございます。確かに地域コミュニティの中で区が多いところは区の中で、自主防災組織自体は元来、自主的に皆さんが結成するものですから、区の中で世帯数によって今、砥部町のほうで100世帯ごとにつくるところもあるでしょうし、区で300世帯あるところは300世帯でつくるのか150世帯でつくるのかというのは、区の中でどういう区の地域的なものもあるかと思っておりますので、そういうことで、区の中で動きやすい、活動ができるような形態になっていくのではないかと考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

平成21年から働きかけているとおっしゃったということは、ベストな形までいかななくても、こういう形で自主防衛組織というものをつくっていくというような、指導ではなく、何と云うんですかね、やっぱり指導ということになると強制というような意味合いにもなってきますが、こういう形のものができ上がったほうがベターであるというような話し合いの場とか、そういうような形でされることはないでしょうか。もう本当に自主防衛ですから、自分たちで自発的にやってくださいみたいな、ちょっと突き放したような形で働きかけているという、働きかけの内容というか、その辺はどういう形でされているのでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

平成21年度に自主防災組織の結成に向けて働きかけをしたわけですけれども、平成20年度におきましては、結成に向けてのまず地域のリーダーが必要になりますので、地域のリーダーづくりということで、地域防災リーダー養成講座というのが、これは県で講座を開催されております。佐賀県でもその当時は自主防災組織の結成率が低かったものですから、平成20年度から佐賀県もそういうことで自主防災組織の結成に向けて動き出されたということで、基山町にも自主防災組織をつくっていかなければならないということで、20年度に地域防災リーダー養成講座を区長さんとかに受講していただいております。それで、21年度にそういうきっかりづくりをして結成をしているというふうな状況でございます。

この自主防災組織の活動状況については、各区によって活動状況は今現在、活発にされているところもあれば、余り地域によっていろいろ、その地域の災害に対する認識というのも違うでしょうから、かなり活動によっては差があるというような状況とはなっております。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

今、課長が言われたように、私も以前から思っていたんですが、基山町として一くくりではない各区の想定をした防災組織の取り組み、または運営が必要になってくると考えます。それで、今回は第5次総合計画でということで地域担当職員の方が各区からアンケートをとっていらっしゃるんですが、この中で、そういう防災に関係するようなどいうか、そういう

ような要望とか、それを含めてどういうふうに集計され、今後それを、どんなふうな意見として酌み上げて対応していこうというふうにお考えでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

総合計画のアンケートについて、防災の話にも出ております。最近、県が出した危険地域の問題もありますので、そういう話は出ております。ただ、そののところをどうやっていくかということについては、まだ正確には把握を今しておりませんで、今後そういうことは詰めていかなきゃいけないというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

認識の中に、やはりそういう声も上がっていたということでしょうし、当然、私たちけやき台のほうから考えた場合、2区とか、ちょっと山合いのほうのところでは以前、土砂崩れ等があったところというのとは、一律に同じように防災に対しての意識は同じ町であっても違ってくるんだらうなというふうに思っておりましたので、そういう具体的な事例として防災体制の要望があったり、それはいろいろ私たちの考える以上に現場の声というのが必要になってくるでしょうから、そういうのは酌み上げていただきたいと思います。

次に、場所によってですけど、基山町では防災無線が非常に聞きづらいという声が多く聞かれ、現状のままなのかということで2の質問をいたしました。

今回の視察では岡山県和気町のほうで消防行政について勉強させていただいたわけですが、その中で、やはり山合いの場所ということで無線では聞こえないということで、告知端末というものを6,400個無料で各戸に設置したということでした。それによって毎年9月第1週目の日曜日の防災訓練には、その告知端末から避難通告を発令し、各地区避難所に実際に避難するという、そういう訓練を行っているという説明でした。ただ、これは和気町が平成18年に2町合併され、そのときの特例債というものを利用してということでしたので、基山町で同じように、こういう形がどうですかということを行うつもりはありません。ただ、デジタル機器も新しいものもいろいろ出てきておりますので、そういう新しい機器も利用できるような状況で、ここまでの大きなお金をかけない——大きなお金というのは、ここの告知端

末は大体1台どれぐらいですかといったら、5万円ぐらいとおっしゃったものですから、6,400掛ければ金額が大体出てくるわけですが、そういう大きなお金をかけないで効率的な情報伝達をできないものかということで、知恵を絞って、いや、基山町は今現在、このようにしっかりとした防災無線であるということを答弁をいただいたんですが、聞こえづらいということも実際あるのは事実ですので、現状の問題と、それから、今後はそれに対してこういうふうな形で別の形を切りかえてやっていきたいんだというような、今、そんな具体的な状況でお話がされているのか、ちょっとその辺、誰か教えてください。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

今、和気町のほうで告知端末という話がありましたけれども、基山町でも一応中央放送センターみたいなのをつくって、今、防災行政無線がかなり実際、災害発生時には大雨とかで窓とかも閉め切っていますので、かなり室内には聞こえにくいということで、何とかできないかというようなことで、いろいろ検討して、和気町と同じような考え方で調査したことがあるんですけども、それについては、やはり和気町と同じような金額になったものですから、これはとてもできないというようなことで、それは断念をいたしました。

その中で今出てきているのが、今、実際周知のほうでやっているのは、緊急メール通報ということで、ソフトバンクなりauなりについて今、緊急メールとかでやっています。鳥栖については、佐賀県が実施しています防災ネットあんあんとか、そういうもので周知をしていますけれども、それは住民が届け出ないとメールが届きませんので、エリアメールというのはエリアに一遍に届きますので、今、基山町ではそっちのほう活用をしています。

ただ、今そのほかに防災ラジオとかの検討をしております。ただ、今、防災ラジオの検討をしておりますけれども、防災ラジオのような住民に周知する方法が今、かなりいろんな機器も発達してまいりましたので、よその市町村では、防災無線の放送がそのまま室内で聞けるようなシステムを、うちのMCA無線でできるかどうか、ちょっとまだ今、業者のほうに相談していますけれども、そういうものもありますし、インターネットを使ったそういう告知みたいなのもあるみたいですので、もう少し防災ラジオということに捉われるのじゃなくて、もう少し研究して、将来に向けてもう少し住民に対して周知しやすいものがあれば、そういうものを検討していきたいというふうには考えています。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

新しいものはすごく便利でいいんですけど、年々年をとるたびにそれを理解して使いこなすというのが大変になってくるので、いろんな新しいものも本当にたくさんの手順とかなくて、ここを押せばこうだとか、ここを押したらこういうふう聞こえるとか、そういう簡単なほうに多くの方が利用しやすい形で検討いただけたらと思います。

次に、全国的な人口減少の中で、当然若い人の割合も減ってきておまして、消防団員の確保の難しさは基山町だけの問題ではないということで、この3番の質問をいたしました。

既に先ほど和気町で言いました告知端末を利用して、こちらのほうでは地域防災に対する住民の方の意識を高め、それだけではないと思いますが、人と会ったり何かイベント等で話す機会があったら、消防団に関しての声かけというのか、そういうのを意識してやっていますということでしたけど、こちらでは694人ですね、消防団員数。そして、ここには1本部8分団体制で5つの機動部、49の部で構成された消防団の組織をされております。こちらは人口が約1万5,300人ですので、基山町のほうは人口としては若干多いわけですが、団員確保は先ほど言いましたように声かけをしていますし、それから、数年先というか、数十年まではならないかもしれませんが、これを見越して、小学校のほうの授業で消防に関しての講義とか取り組みについて、消防団員が直接行っているということでした。

ある分団でいろいろと内容については工夫して取り組んでいらっしゃいますが、こちらの入団の資格は基山町と一緒に18歳以上で町内に居住または勤務しているということでしたので、その辺の特段の差はないと思うのですが、基山町も回答をいただいているいろいろ工夫されているのはわかるんですが、この辺、将来を見越してこういう直接に消防団の方が取り組みについてこんなやっているんですよ、こんなですよという説明をされるというような、こういう点については、どう思われますか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

確かに今、議員が言われるように、これからは、今から世代を背負っていく青少年といたしますか、今から消防団員になられる方への消防団の意識、知識といたしますか、そういうもの

をやっていく必要があるんじゃないかというのは考えております。

実際、小学校でそういう消防団による講習というか、授業ができるかというのは、ちょっと検討しないとわからないと思いますけれども、将来的には、年に1回とかそういう形にはなるかとは思いますが、そういう方法も今後、研究していかなければならないんじゃないかというふうには考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

そして、別の形で愛媛県のほうではNHKの「おはよう日本」の中でも紹介されておりますので、御存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、消防団員応援プロジェクトとして、県内の飲食店等のお店や道の駅など人の集まるところと連携して、消防団員ですという会員証を提示すれば何%か引かれるというのか、特典があるということなんです。まだこれだけでだけの成果が出ましたということまでは出ておりませんが、こういう取り組みについてはどう思われますか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

これは去年でしたね、消防団活性化対策ということで佐賀県全体で取り組んでいこうということで、佐賀県が活性化対策について全市町で話し合いを持たれて、割引制度といいますか、団員証を見せれば割引をしていこうということで、そういう提案をされております。

今、実際に割引をしているところも多分あるかと思うんですけれども、基山町ではそういう方法にまだ積極的には取り組んでいませんので、県内全体でそういう取り組みをしていこうという方向には今なっております。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

佐賀県のホームページをチェックしたのですが、ちょっとその辺については私は探し切れませんでしたので、その点はもう始まっているというふうなことで今、認識をいたしました。それで、こういうものというのも取り組みとしては地域社会との結びつきが当然大事になっ

てくるわけで、住民の自助、共助の協力体制が本当に必要なことと考えるわけですが、継続的にやっっていこうと思うと、定着としては難しいのかなと思います。

そこで、先ほど紹介しました和気町のような小学校の授業で講義というようなことは、教育長どうでしょう、基山町では難しいでしょうか。可能なんでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

防災のことを教育でやるということは、大変これは意義があると思います。このことについては、学校の中でも地域の防災に対しての関心を持って取り組んでいくところが重要であるとは考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

ほかのところから消防団の方が授業にということでしたから、そういうことを学校側として受け入れていただけるのかということ、可能でしょうかということでお尋ねをしたわけなんですけど、ことしの10月25日の基山中学校の文化発表会の中で、中学校1年生の総合発表がすごくわかりやすくとても素晴らしかったんですが、その発表の中で、「基肆城1350年」というタイトルで、自分たちの町にあることを誇りに思いますというようなせりふを含めて紹介をしてありました。

町の出身ですね、有名な方、あるいはお店の紹介もありました。そこには地域の方、保護者の方も多く来られていて、私的には、ここに自分たちが将来この基山町を守るんだという意識のもとに、消防、防災について発表があれば物すごくよかったなというふう感じたわけなんですけど、趣旨とすれば、今、教育長がおっしゃったように、大人がつくるまちではなくて、自分たちもこれから大人になっていって、これを担うんだという点からすれば、こういう発表、いろんなことを、それをつくるために時間をかけて子供たちが勉強していく中で、こういう防災、消防、これについても取り組みの中に入れていってもよかったんじゃないのかなというふうに思ったんですけど、そういうふうに思うことはおかしいですか。どうでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

当然、子供たちは地域の中で生きておりますし、これから大人になっても地域の中で生きていく子供もたくさんおると思います。そういう中で、地域の防災の仕組みというのをどれだけ子供たちが理解しているかというのは、確かに疑問な点もあります。ですから、地域の防災について子供たちに理解させ、自分たちが実際にそれに組織に入るといふのは難しいと思いますが、そのことを理解するためのいろんな取り組みというものは当然子供たちにも認識するような教育をやってはいいというふうに思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

中学校になるまでに、小学校のうちからそういう意識でなっていくと、中学生ぐらいの知識、理解力で消防防災についての考えがある程度固まってくるのかなと思います。

今、日本食が世界遺産になったのかな、そういうので小学校の子供たちにもプロの調理師さんを知ってもらおうということで、学校のほうに来て、皮むきからいろんなことを教えている、そういうものに触れさせるという、そういう教育がされているわけで、そういう点からいくと、特別なことじゃなくて、何かあったら自分たちの町なんだから、こういう形で守ろうよ、こういうことがあるんだよというようなことを、小学校のうちから少しずつ、そして、中学校になったら、具体的に発表する段階でも、じゃ、具体的に基山町は過去にどういうことでこういう防災に関して、ここはしっかりやっていかなきゃいけないなという事例があったのかということも含めて、勉強していくいい機会にこういう発表会というのはなっているんじゃないかなと。そして、それを発表する場には地域の方や保護者の方が来られているわけだから、聞かれているほうも、ああそうなんだ、基山町ではこういうことなんだって、子供たちがこれだけ考えてこういう発表をしているけど、自分たちも考えなきゃいけないんだという、そういう一緒に共有できるような時間になるんじゃないかなって、この発表会を見てそういうふうに自分は考えたので、ぜひそういうふうな形で、小さな取り組みからでもいいですので、少しずつでも子供たちに意識を植えていくような盛り上がりをつくっていくような、そういう機会をぜひ持っていただきたいと思います。

大震災で津波があった場所からは、先人が残した石碑とか、それには、これより下には家

を建てるなよという、あるいはここは昔、沼だったんだ、あるいは池だったんだというような、明治以前の資料は国会図書館に行かないとわからないような内容まで言い伝えという形で残っています。震災があるたび、ああ、ここにこういうことで先人の人は残していたんだなというのは、ニュース等で見ると、そういう石碑というのは、ただ、ふだんはすごく何も無いように通り過ぎていますが、いざ事が起きてみると、ああ、そういうことがやっぱり周りの人から次の人へということの言い伝えで残っているということで、これはある意味で教育の1つだろうと思います。ですから、そういう授業あるいは外から、外というか、そういうことで仕事をされている方のプロの話というか、そういうことも機会を見つけてぜひしていただきたいと思います。そういう次世代への継承ということは、よそで和気町も含めてうまくいっているということは、基山町で全く同じ形ということじゃなくても、形を変えてでも基山町も取り組んでいただきたいと思います。

次に、消防車両についてお尋ねをしたくて、うっかり私が1回目の質問に入っていなかったようなんですが、余り詳しくは聞けないんですけども、ちょっとお尋ねをさせていただきたいと思います。

ことしの6月議会で緊急防災・減災事業を利用して消防ポンプの自動車、消防用自動車を取得するという議案が可決され、9台分が一括購入となったところですので、次回の更新となると随分先になる話なんですけど、先ほどから勉強に行った和気町のほうでは、当然ここは9台分ですが、向こうはもっと多い車両を確保されていますので、維持管理の費用を考慮して、山合いの場所でもあるけれども、離合がしにくいところもありますし、そういうことも含めて、可搬ポンプ積載車50台のうち33台が軽四輪で配備されております。基山町も広い道路と、ちょっと山合いになると軽のほう動きやすいんじゃないかなという道幅のところもあるんですけど、今後、もう更新が終わったところなのであれですけど、今後の考えとして、こういう軽にして管理料を抑えるとか、そういうことについての検討ということを進めていくのは、今この時点で聞くのはあれですけど、こういうことについてよそで取り組んでいるということについてはどう思いますか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

経費節減という見地から、そういう考え方もあるかと思います。ただ、基山町においては、

基山町という地域から見れば、軽でないと地域に行けないような集落がないということで、今の積載車になったときからそういう考え方で整備していると思います。ただ、四国とかそういう山間地では、かなり山間地の奥に集落が点在しているという集落もいっぱいありますので、軽で行かないと多分もう消火活動ができないというようなことで、そういう経緯的なものが、地域的なものも考慮してそういうことになっていたと思います。ただ、基山町では、やはり軽では2人しか乗りませんので、今、うちのほうではダブルキャリーで前には6人乗れるというふうになっています。放水活動については最低3人いないと放水はできませんので、軽自動車に2人乗って火災現場に行っても放水することは不可能です。ですから、今、少なくとも最低3人は要ります。ただ、3人でもかなり用心して放水しないと危ないような状況も発生する可能性がありますので、少なくとも4人ぐらいいれば安全な消火活動ができますので、少なくとも3人以上団員を確保して、必ず格納庫を出るというような形に今の消防団はなっておりますので、軽ではなく今の普通車を基山町は配備をしているということで、もう昔から今の積載車クラスのポンプを載せて整備をしているということだろうと思います。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

訓練の様子を見せていただくことは、私たちは見せていただくだけなので、詳しいことはちょっとわからなかったのですが、維持管理の面からでいくと軽でもいいのかなというふうに視察のときに思ったものですから。ここ数年、個人というか特定な、食堂のお名前を言っているのかどうかあれですけども、ああいう大きな火災がありましたけれども、それ以外で基山町として消防車が出て消火活動したということの件数的なもので、どうなんでしょうか、ふえたとか、こういういろんな取り組みの中で、それほどの件数は起きていない、全体としてはどういう今、状況なんでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

火災ですから、起きないときもあれば起きるときもある。今ここ何年かは、大きな住宅火災とかが発生しているような状況かと思います。ここ何年かで全焼している火災が数件起こっていますので、今後そういう火災が起きないようにしなければいけないというふうには

考えておりますけれども、ここ何年かはそういう火災が多くなっているというのは認識しております。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

建物の形態とかいろいろ、燃えやすいというふうなものも昔の家屋にしたらふえているのかもしれないから、小さな火がすぐ大きくなるということはあるのかなと思いますが、取り組みとしては、自主防災から進めて自分たちで早目に取り組めるといったら、この前の消火器の交換で公園に行ったときに指導していただいたんですけど、今はもう簡単に、まず火が起きたら消火器を取り外してするというよりも、まず火に向かって投げつけて、当てて消火するという、そういう簡単なものもできておりますので、ああいう機会でも一回聞いたからできるというものでもないの、ぜひそういうものも今後、自主防災を進めていく上で、自分たちが小さな火のとき、大きな火になる前にできることはどういうことなのかという、そういういろんな知識も含めて、指導というか、ぜひしていただきたいと思います。

次に、防犯灯について質問させていただきます。

防犯灯の整備状況についてお尋ねをして、ここに1回目の回答をいただいたわけですが、私も自分の住んでおります17区のほうでも、ことしのお正月に、防犯灯で、ちょっと夜暗いところがありますから、地域のパトロール活動をしていただいている方に、その時間、資料集め、この時間だどこが要るんだ、これぐらい暗いというのを何度も行って統計をとらなといけないけど、そういうのが難しいので、ぜひそういう暗いところがあったらチェックをお願いしますというお話をさせていただいたんですけど、そういうことで、けやき台でもそうなんだけれども、基山町全体としてもそういう声はいろいろあるだろうということで、それで、先ほど言いましたように、第5次総合計画の中で集めたアンケートに、防犯灯に関してどういうのが出ているのかということで1の質問をいたしました。

それで、ことしの8月18日のまちづくり提案の回答で、場所は16区ですが、防犯灯を設置する旨の通知が出されておりました。これも、まず最初に集めた各区のアンケート調査の要望の中にあっただけでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

要望が出たときに、具体的にどこの要望という話はちょっと私のところまで把握しておりませんので、その要望がアンケートで出たかどうかというのは確認いたしておりません。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

なかなか各区の要望というのは集めにくいと思うんですが、今回、地域担当職員が出向いて行って各区で集めたということで、しっかりと各区の問題点が浮き彫りになったのではないかとということでお尋ねをしました。というのも、この回答にもありましたが、提案理由の中に、「再三地域の方から要望がなされていた」というふうな文言がありまして、区长、区长代理、安全な町づくり推進委員、行政組合長が現地を確認し、基山町まちづくり提案書により要請することに至ったとありました。まち全体で地域からの声をベースに必要箇所をチェックし、何年かに分けても必要としている場所に防犯灯というのは整備していくものだと私は思っていたのですが、そういう設置の流れではなかったのでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

松雪農林環境課長。

○農林環境課長（松雪靖弘君）

防犯灯におきましては、数年前に国ないし県の補助がありまして、議員御存じのとおり、けやき台のLED化、また、基山駅前のLED化ということで、そういうことで、ある程度市街地につきましてはLED化しましたが、今、議員おっしゃいますように、年次計画でLEDに変えるという計画は今のところございません。といいますのは、県のほうにもそういう何らかの補助があるかということをお聞きしましたが、そういうことが今のところないということで、普通の防犯灯の修繕等で改修しているのが実情でございます。

以上です。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

恐らく懐が温かければ、ああ、あそこもしたい、ここもしたいという要望はわかっているんだけどというニュアンスを私は感じているんですが、うちが息子だったものですから、お

嬢さん方の親御さんからの結構そういう夜道暗くて怖いんだよな、心配なんだよなという声を聞くと、ああそうだなって、同じ子供を持っているといっても、やっぱり息子と娘ではそれだけ違うのかなと思うんですが、必要とされている、ここ必要だからつけてほしいというような要望は、当然ある程度認識をされていると思うんですが、ここみたいに、まちづくり提案という形で提案書を出して、再三要望という形でつけてください、つけてくださいとすれば整備していくという、そういう流れなんでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

松雪農林環境課長。

○農林環境課長（松雪靖弘君）

今おっしゃっている内容につきましては、例えば、議員さん要望に来られたり、区長さんあたり来られたときにはどういうふうにしますかという質問だと思いますけど、やはり基本的には、先ほど町長がお答えしましたように、まちづくり提案書に従って随時チェックをしていくという形です。しかしながら、当然、年内の予算等があるかというふうにも考えております。例えば事件とか起きましたら、当然対処の仕方が違うと思いますけど、通常は、やはり受け付けされた順に現地を精査しまして設置して、当然予算がなければ、その時点で来年予算化します、例えば、補正があれば補正のほうで対処しますというふうな段階で、突然防犯灯をつけてくださいと来られましても、先ほど言いますように、通常についてはまちづくり提案書で提出していただいているのが実情でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

本当に予算があれば、つけて安心・安全なまちづくりをしたいんだと思うんですけど、私もそうなんです。この辺の、例えば、要望があるからじゃなくて、判断基準に何か一定のラインみたいなものがあるのかなということ、2番の質問をいたしました。

というのも、暗い暗いといっても、どういう暗さを基準として、ああ、これはみんなが認識するここは暗いな、つけなきゃいけないなという基準になっているのかということ、今ちょっとわからなかったのですが、何かそういう、ベースになって考えるときに、電気関係は詳しくないんですけども、何とかルクスでこれぐらいの明るさは夜道を歩くときに必要とか、そういうものがあるかとは思いますが、参考にされている明るさというようなもの

はどれぐらいのものを考えてありますか。

○議長（鳥飼勝美君）

松雪農林環境課長。

○農林環境課長（松雪靖弘君）

明るさについては、明るいうちはいいですけど、当然、電球で変わりますけど、考え方としては、4メートル先の歩行者の顔の向きや挙動がわかるというぐらいにしないと、当然一番いいのは4メートル先の歩行者の顔が見えたら一番いいですけど、そういうことじゃなくて、あくまでも防犯灯は20ワット相当のLEDを今、設置しておりますので、あくまでも先ほど言いますように、挙動がわかるというぐらいの考え方でしております。

中には40ワット相当のLEDにしているところもございます。そこに関しましては、交差点とかそういうふうな道路が交わる場所についてはしていますけど、通常は20ワット相当のLEDの設置をしているところでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

個人差がありますので、暗いと感じるか、いや、これぐらいの明るさだったら大丈夫、足元は見えるという、その辺は個人差があるかと思うんですが、ちょっと私も聞いたら、例えば、1台新しくつけるのに30万円ぐらいかかるよというふうに聞いたんですけど、実際はどれぐらいの金額がかかるものなんでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

松雪農林環境課長。

○農林環境課長（松雪靖弘君）

今、議員おっしゃっている1基当たり30万円といますのは、例えば、基山でいう都市計画街路の歩道の横についていますアールのついた部分の水銀灯といますか、そういう金額が30万円ではきかないかなというぐらい思っております。本町におきましては、当然新規要望出たところにつきましては、まずその地区の周りに丸電ないしN T Tの電柱がないかということをもとに調べて、それから、そこで十分であればそこに設置しますが、実際何もなければ、当然ポール支柱等が必要になってきます。ポールを設置して水銀灯、LEDをすれば、やはり7万円から8万円というのが通常かかります。今、修繕等で今の蛍

光灯をLEDに変えるというところであれば、今のところ1基当たり2万5,000円程度でおさまっているところがございます。

しかしながら、今の修繕等で、今、新規につけてくださいというところじゃなくて、今ついています防犯灯の支柱が土のところから腐食して交換するところも出てきております。そういうことであれば、また当然支柱等も変えるので、新規じゃなくて、逆にそういうのも現在ふえてきておるような実情でございます。

以上です。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

設置にしろ交換にしろ、計画的にしないと大きな金額になるわけですが、私たちが出ております運営委員会、これに出ますと、月ごとの軽犯罪の事件の発生状況の報告というものがあります。1区から17区まで毎月の件数が出ておまして、平成26年1月の窃盗が6件、2月の窃盗が8件、そのうち1件はひったくりとあります。これで見ると、昼間なのか夜なのかというのはわかりませんが、夜であれば、防犯灯があればそういうことも起きなかったのかなと単純に思ったりもするのですが、防犯灯をつけ明るくすることで犯罪発生を未然に防ぐという抑止力は当然、防犯灯にはあると思うんですが、過去のこういうデータから、場所の特定はできませんけど、ここはつけといたほうがよかったんだろうと思われるような場所、把握はされていますでしょうか。具体的な場所は要りませんが。

○議長（鳥飼勝美君）

松雪農林環境課長。

○農林環境課長（松雪靖弘君）

今、安全な町まちづくり推進協議会が月1回あっております。その中で、交番の方が状況報告されまして、それを各区の運営委員会のほうで報告されているかというふうに思います。実際、そういうふうな事案が出てきた場合に、そこに防犯灯があったかないとか、犯罪があるということであれば、当然そういうふうな防犯灯がないところがあるんじゃないかと思えますけど、今のところ、そこまでうちのほうで犯罪があつて、現地に行って防犯灯があるかないかについては、警察のほうからそういうところは防犯灯が必要じゃないでしょうかということが多分アドバイスとかあろうかと思えますけど、うちのほうから現地に行ってしたと

というようなことについては、現在ありません。

○議長（鳥飼勝美君）

牧菌議員。

○3番（牧菌綾子君）

件数の割に、そういう点では基山町があそこは危ないよねという場所はないということで、安心をいたしました。犯罪が起こってからでは遅いわけですが、設置を要望されるような場所があるなら、町としても、つけるつけないは別としても、まずそれを把握しておくということは必要かなというふうに思って3番の質問をいたしました。

全国的には仕事柄、夜遅く帰宅という方も多いので、ニュースで御存じのように、暗い道を後ろからバイクで、あるいは車でひたたくりに遭い、事故に遭うというようなことも現実には起こっております。先ほどの課長の話では、基山町では過去にそういうものは恐らくなかったのであろうと、あるいは警察のほうからこういう報告があったという、ここはちょっと気をつけてくださいとか、そういうことがあるであろうと思いますから、その点では、基山町は犯罪の件数も割と少なく、思うほどそんなに心配はしなくても大丈夫に暗い夜の道を歩けるのかなと、そんなふうには考えるのですが、具体的に、ちょっと話が飛ぶかもわかりませんが、先日、情報番組の中で、ある女子大のトイレが暗くて個室の広さが少し狭いということで、全面リニューアルされた様子が出ておりまして、蛍光灯2本での明かりがLEDにより250ルクスの明るさで明るく利用したいというような空間に変わっております。これは女子学生を確保する上で改善する必要がある大きな問題点であったということです。こんなことで学生が集まるのかな、暗いトイレを明るくしたということで学生が集まるのかなというふうに思われるかもしれませんが、女性が心地よいと感じる空間は子供もお年寄りも大体寄りやすい空間です。

こんなことを何で言うかといいますと、基山町のよさ、先ほど件数的には今までおかしいな、ここは危ないな、こんなところは放っておくのかなというような場所はないというふうな認識ですが、こういうふうになんかちょっと見方を変えれば、防犯灯を進めていく、こういうことは今、県で今までなかったんだけど、基山町としては本当に住みやすい、若い女性の方も暗い道も怖くない、歩けるような、そういう施策を、足りないところはこういうふうな認識をしております。そして、ここは予算を少しずつつけてでも取り組んで明るくしていきますという、こういう姿勢というのが、別の意味で基山町のよさをアピールする1つにもなるのかな、

見方を変えればですけど。でも、そういうこともあるかと思うんです。住んでいらっしやっ
て、もう娘が本当に暗いから嫌だと言って引っ越したという人も、件数的にはそう何件もあ
りませんが、実際あるわけで、やはり男性の目から見たら、いや、4メートル先に人の顔
見えるけんよかろうとかいうのじゃなくて、やっぱりそれが怖い。犯罪に遭う遭わないだけ
じゃなくて、夜道を歩くとき結構つまずいたり、先が見づらいと、ちょっとした穴凹で
引っかかってというか、本当に年齢を重ねるたびにつまづく回数がふえていますので、若い
女の子だけじゃなくて、そういう点では、明るく――夜道を明るく歩くのも、そういう意味
ではちょっとあれですけど、そういうときも町を安心・安全に歩けるんだという、ですから、
ぜひそういう見方を変えれば防犯灯の必要性というのも見方が若干変わるのかなってちょっ
と思っ、このニュースを見たときに、ああ、そんなことで女子大学生を確保するんだと、
それがニュースに出るぐらいだったからびっくりして、感覚としてはやっぱり暗い夜道は歩
きたくないなということだったんです。

それで、そういうふうに言ったら、ただ暗いから今ある防犯灯の数をふやしてほしいとい
うだけじゃなくて、町全体をもう一回見直して、男性であるけど、自分が年寄りのおばあ
ちゃんだったら、おじいちゃんだったらこどうやろうというような形で目線を変えていた
だいて、アンケートも上がっているようですので、ぜひその辺はもう一回確認をして、設置
時期はこれから検討していただきたいと思いますが、予算も余らないと思いますが、ぜひ少
しずつでもつけていって、これも安心・安全なまちづくりにつながるんだということで、防
犯灯ということじゃなくて、さっきおっしゃったように、支柱から崩れてもう一回つくらな
きゃいけないところもありますから、それにかかる予算も、ただ電灯を交換するだけの金額
とも変わってきますので、大きな施策の1つとして、基山町は安心・安全にお金かけている
し、いい町よというような言い方もできるということで、取り組んでいただきたいと思いま
す。

今回はこの2点について、安心・安全についてお尋ねをいたしました。これで終わります。
ありがとうございました。

○議長（鳥飼勝美君）

以上で牧菌綾子議員の一般質問を終わります。

ここで10時10分まで休憩いたします。

～午前10時 休憩～

～午前10時10分 再開～

○議長（鳥飼勝美君）

休憩中の会議を再開し、次に、重松一徳議員の一般質問を行います。重松一徳議員。

○6番（重松一徳君）（登壇）

皆さんおはようございます。6番議員の重松です。

朝早くからの傍聴、大変ありがとうございます。感謝申し上げます。

今回の一般質問は、身近な区公民館を今後のまちづくり、高齢者福祉政策、子ども・子育て支援事業にいかんにかかしていかのか、この1点で質問をしたいというふうに考えています。

基山町には、社会教育法で定められた公民館は現在ありませんが、17区に、それぞれ区公民館があります。区公民館ですので、当然、施設管理、運営は区の自主性に委ねられていますが、各区の公民館とも活発な活動をされ、今後のまちづくりを初めとした、さまざまな取り組みの重要施策であるというふうに私は考えています。この認識の中で、一般質問を行います。

それでは、区公民館活用を中心とした、町施策についての質問をいたします。

第1点は、区公民館を所掌する部局はどこか、説明をしてください。

第2点目は、大雨災害や土砂災害などの場合は、避難場所として指定されている区公民館もありますが、その区公民館で、容積、設備等に不備はないのか、質問いたします。

3点目は、それぞれの区公民館の活動、近年大変さまざまな活動がされておりますけれども、町は、区公民館の活動を把握されているのか、質問いたします。

第4点目は、区公民館の活動に対して、町はどのような支援を行っているのか。例えば、具体的には人的支援、財政的支援、物的支援、その他の支援も含めて説明をしていただきたいと考えています。

5点目は、町民活動団体や地域コミュニティーの活動実績で、区公民館の活用がされておりますけれども、報告を受けているのか、説明をお願いいたします。

6点目は、これは具体的な形になります。区公民館を活用して、高齢者福祉としての、いつでも集える区公民館として利用方法を、町の支援もできないのか、一緒に考えさせていただきたいと考えています。

第7点目は、子ども・子育て支援として、今現在、放課後児童クラブがありますし、これは、町の施策としても放課後子ども教室事業があります。これをあわせ持った児童見守り事

業、これは仮称で書いておりますけれども、こういうふうな地域で子供を見守る事業を区公民館を利用してできないのか、質問いたします。

最後に、町として区公民館の活用の基本方針を示してください。

以上をもちまして、1回の質問を終わります。よろしくお願い申し上げます。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）（登壇）

それでは、重松一徳議員の御質問にお答えを申し上げます。

公民館活動ということになりますと、一部といいますか、教育学習課というような考え方もあろうかと思っておりますけれども、まず、1回目のお答えとしましては、私のほうから一括して申し上げさせていただきます。

1項目めでございますと言いますか、いわゆる今度の質問は区公民館を活用してのまちづくり、高齢者福祉、子育て支援についてという1点でございますので、(1)区公民館を所掌する部局はどこかというお尋ねです。

各区の公民館活動を所掌する課は、現在のところ教育学習課でございますが、今議会で提案いたしております機構改革の議案が可決されれば、来年4月からはまちづくり課の所管となります。

2点目の、避難場所として指定した区公民館で、容積、設備等に不備はないかのかというお尋ねです。

基山町では、区公民館を避難施設として指定しているのは、予備避難所として第2区、第7区公民館、土石流災害避難所として第1区、2区、4区、6区の公民館を指定しております。避難所につきましては、安全であること及び避難先としてわかりやすい施設として区公民館を指定しております。

(3)17行政区に設置されている区公民館の活動について、町は把握しておるかということです。

基山町では、各区公民館の公民館活動に対しましては補助金を交付しておりますので、その事業が完了したときに実績報告書により報告をいただいております。

(4)区公民館の活動に対して、町はどのような支援を行っているのか、人的支援、財政的支援、物的支援、その他の支援ということでございます。

各区の公民館活動に対しましては上限6万円を、自治会活動保険料に対しましては4割相当額を補助金として交付をいたしております。また、区公民館建設等に対しましては、30万円以上の区公民館の取得費や工事費に対し、その4分の1の補助を行っております。ただし、補助額は400万円を限度としております。

(5)町民活動団体の地域コミュニティの活動実績で、区公民館の活動報告は何があるのかということですか。

区公民館の活動としては、まちづくり基金の活動について町の方へ報告が上がっております。これによれば、4つの区で活動がなされ、地域の防災、防犯、コミュニティ道路の美化活動、区内の環境整備、地域の子供との交流及び高齢者の安否確認等の報告が上がっております。

(6)区公民館を活用した高齢者福祉として、いつでも集える区公民館としての利用方法に、町の支援ができないのかというお尋ねです。

区の公民館は、高齢者に限らず地域の中心的な拠点として様々な利用がされています。その利用に当たっては、区によって事情や支援していく内容にも違いがあると考えますので、区長様方と協議しながら、今後研究させていただきます。

(7)です。区公民館を活用した子育て支援として、放課後児童クラブと放課後子ども教室事業を合同にした児童見守り事業を創設できないかというお尋ねです。

現在策定中の子ども・子育て支援事業計画の中でも、地域における子育ての支援の充実についても検討しているところでございます。御提案の児童見守り事業は、地域での子育て支援の充実には有効な事業であると思われまますので、今後、検討していきたいと思っております。

(8)町として、今後の区公民館活用の基本方針を示せということですか。

平成24年度に策定しました地域福祉計画にありますように、「子どもから高齢者まで町民の誰もが住み慣れた地域の中で、心豊かに安心して暮らせるような仕組みをつくり、それを持続させていくことが求められています。」とありますように、地域はこれからの社会の中で大きな役割を期待されているところでございます。また、町民の皆様のさまざまな要望を取り入れる際には、町民の皆さんと協働で行うことが、町民の皆さんの満足度を高めると考えております。さらには、このような取り組みが、地域の魅力を高め、地域への移住者をふやすことにつながると考えております。

そこで、単純な地域活動に対する補助という観点ではなく、町の事業の一部を地域と協働

で行うという観点から、区公民館活動の活用、拡充は不可欠であり、今後どのような形での町としての支援をしていくか、その方向性を早急に検討してまいります。

以上でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

それでは、2回目の質問をさせていただきます。

まず、今、1回目の答弁をいただきましたけれども、大変前向きな回答、答弁内容だったかなと私は考えております。今の答弁に肉づけをする意味でも、2回目以降の質問をいたします。

最初に公民館の所掌部局、今は教育学習課、これが、4月からはまちづくり課のほうに、町長部局のほうにかわるんだというふうに言われていました。区公民館の現在の位置づけ、どのような位置づけをされているのか、まず、これについて、現在ですので、教育学習課のほうから答弁をお願いいたします。

○議長（鳥飼勝美君）

原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

現在の公民館につきましては、公民館法による公民館ではございませんけれども、公民館類似施設ということで、そういった活動をしていただいているというふうに認識しております。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

それこそ、公民館長等の設置及び事務委嘱に関する規則、この規則で、区公民館は規定されているんですね。「社会教育法第42条に規定する公民館類似施設に認定した各区の施設で、町教育行政の円滑化と地域住民との連携及び自治組織の確立並びに社会教育の運営を効率的に推進するため、公民館長等の設置及び事務委嘱に関し、必要な事項を定めることを目的とする。」とですね。そうすると、4月から——これは議案にもかかわりますので、詳しくはそれこそ議案審議の中でまた再度質問をしますけれども、本来、今回、先ほど言われました

ように、教育長部局から町長部局にこの公民館については移すんだと、新設まちづくり課に移すんだと言われましたが、これは、条例改正を本来をしなければならない、これは規則で定められていますけれども、これの中にも費用弁償等に関する条例の定めるところにより報酬を支給するという中身等もあるんですね。条例で本来、今回のやつはしなければならないと思いますけれども、こういう発想はありませんでしたか。

○議長（鳥飼勝美君）

原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

現在、規則で公民館長の設置及び事務委嘱に関する規則というような形でやっておりますので、今回、機構改革による全体的な見直しがあっておりますので、今度の12月にはしておりませんが、今後、その辺も含めて検討をしていかなければならないかと思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

これ以上はもう議案審議の中で行いますので、この場では行いません。

それで、今言われました規則にも書いてありますけど、例えば第1区公民館とか、それから第17区公民館まで、全てこういうふうな公民館という名称でこれは規定されているんですね。今は、例えばいろんなところでコミュニティとか、それぞれの地区の名前を使った読み方に変更しているんですね。

今回、まちづくり課のほうに移すという中では、それぞれの区が、区の公民館に名称も含めて名前をつけるんだと。そして、まさしく自分たちの地域の宝物としての区公民館にしていくんだという意味では、名称を各区で自由に変えていいですよというふうになりますか。これは、4月以降の部局にかわったのを前提に今私は話をしていますので、町長のほうからでも結構ですけれども、答えていただきたいと思っておりますけど。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

現在の各区の公民館は、地域で自主的につくられたものですので、名称については、町が

いろいろ言うことは難しいかと思っております。ただ、従前、区公民館としての役割も果たしておりますので、そういう役割も果たしているから町のほうからいろんな助成金も出ているものと考えております。

以上でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

ちょっと違うですね。この名称についても、規則できちっと規定しているんですね、第1区公民館、それからずっと第17区公民館までですね。そして、先ほど町のほうがそれこそ補助も出しているというふうなことも言われましたけれども、この補助を出すのは、こういうふうなこれに基づいて、これも規則に基づいて、きちっとした規定がある中でされているんですね。だから、今回まちづくり課のほうにかわるということであれば、また新たな発想を私は持つべきなんだと、そういう中ではこういう名称も含めて変えていったらどうなのかというふうな質問です。これについても、違う場面で質問をまたさせていただきますけれども、こういう形になるんだというふうに思ってください。

それから、2点目について少し質問いたします。

それこそ、ハザードマップを見てもらえれば、私もきょう少し持っていつていますけれども、夜避難についてとか、土石流の場合とか載っています。これについては、私も十分理解します。というのは、先ほど言いましたように自治公民館ですので、その自治の中で、例えば7区の公民館とした場合、7区でもし何か災害があったときが、それは当然、区の公民館を活用するというのは当然前提にもなるんですね。1区、2区、4区、6区で土石流が発生すれば、その公民館をまず避難場所としてするのも、また当然当たり前のことなんです。

問題は、鳥栖市と平成23年6月に、災害時における避難者の相互受け入れに関する協定を締結されました。その中で区公民館も、この避難場所として指定されているところがあるというふうに思いますけれども、何区の公民館を指定されていますか。それと、受け入れ人数は何名を想定して協定を結ばれていますか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

基山町がこの相互受け入れによって指定している公民館については、7区でございます。

これにつきましては、1区、11区、7区のほうが避難所の相互受け入れについての関係区となっております。想定は、山下川が氾濫した場合に、1区、11区の方が、例えば基山町の町民会館の指定避難所に避難できない場合は弥生が丘小学校に避難する。それからまた、山下川が氾濫して鳥栖の永吉の住民の方が鳥栖の避難所に避難できない場合は、あそこに四、五十軒ございますので、その方が、一時的に7区の公民館に避難をするということで協定を結んでおります。

避難人数については、7区の延べ床面積を——現在、人数を算出する場合は1人2平米ということで計算をいたしておりますので、7区の公民館であれば収容人員が42名ということで想定をいたしております。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

もう1点は、それこそ玄海原発、原子力災害がもし発生した場合を想定して避難計画がつけられています。これは県のほうでつけられているわけですが、その中で、基山町に対しては、唐津の七山地区の住民の避難先として指定されているというふうに思います。ここにも、区公民館を利用するとなっているというふうに思っていますけれども、これについては、何区と何区の区公民館が指定されていますか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

これにつきましては、基山町の避難所で指定避難施設、それから予備避難施設として2区と7区が避難所に基山町の防災計画では指定されておりますので、県のほうも2区と7区の公民館につきまして、原子力災害の避難施設として指定をいたしております。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

これ確認ですけれども、先ほど、鳥栖との協定では7区が42名となっていますけれども、この原子力災害の避難の受け入れにしても7区は42名ということで、これ確認いいですか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

唐津市の避難計画を持ってきておりませんが、この収容人員以内ではあるというふうに——これ収容人員以内でないと入りませんので、これ以内ではあるというふうに認識しております。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

そこで問題なのは、先ほど言っていますように、区公民館は各区の自治組織の中で運営、そして施設の管理含めてされていますね。そうすると、例えば7区の公民館を7区の住民が使うんだったらわかりますけれども、例えば鳥栖の住民が避難してくる、場合によっては唐津市の七山地区の人が避難してくるという場合は、これは必ずこの7区の公民館を管理されている責任者の区長、または公民館館長との協定を結んでおかなければならないと私は考えるんですね。この協定は結ばれていますか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

協定については、締結はいたしておりません。避難所については、よその市町村も確認しておりますけれども、協定を結んでいるところは少ないかというふうに思います。民間の、例えば会社の施設の体育館を使うとか、そういう場合は協定を結んでいる場合がございますけれども、2区、7区については協定は結んでおりません。ただ、鳥栖との協定とかについては、当然、区長さんとも話して了承を得ているものと思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

例えば、先ほど言いましたように、ほとんどの市町には町の公民館があるんですね。鳥栖市はそれぞれの校区ごとにありますし、大体どこでもあるんです。ところが、基山町には、町が直接運営すると言いましょか、町立の公民館はないんですね。だから、同じ公民館と

いっても物すごく違うんですね。区公民館と、それこそ町が直接運営する公民館とは違うんですね。だから、区公民館というのは、あくまでもこれは自治公民館、自主的に運営もされているし管理もしているんですね。そこを町が避難場所として指定する場合は、私は必ず協定を結んでおかなければならないというのがまず前提だと思うんですね。これは今までしていなかったけれども、今回やっぱり協定を結んでおこうと、結ぼうというふうな考えはないですか。それとも、協定を結んどらんから今のままでいいんだというふうに思われますか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

先ほど申しましたように、町がそういう相互受け入れをする場合に、町が勝手にしているということではなくて、区長さんなりに了解を得て、鳥栖との協定のときも、各区長、区長代理さんには調印式にもお越しいただいて調印をいたしておりますので、各区の区長さんには了解をいただいております。ただ、今言われるように、協定書が必要かどうかというのは今後検討して、考えてまいりたいとは思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

ぜひ、協定を結んでください。それが縛りになるとかなんとかじゃなくて、区長さんにしても、公民館館長さんにしても、一定、機関がかわればすぐ次の人に、やっぱり役員ですので、交代していきますから、必ずこういうふうに協定がありますよというのは、次の人にわかるためにも残しておくべきなんだと私は思いますね。その中で、協定ですので、お互いの立場もありますし、区のほうも、部外からの受け入れをするわけですので、何らかの意見もあろうかと思うんですね。この辺を十分聞く中で、私は協定をぜひ結んでほしいというふうに思います。これ検討してもらおうということでもいいですかね。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

協定を結ぶかどうか、検討はしたいと思います。ただ、佐賀県の消防防災課にも尋ねては——うちのほうで当然結ぶわけですが、協定が本当に必要かどうかというのは、承諾なり

そういうものがあれば、必ずしも協定が絶対に必要かということではないというようなことも相談した中では得ていますので、そこら辺は、また本当に必要かどうかという検討をしていきたいというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

先ほどから言っているんですけれども、例えば、7区の公民館は、補助はもらっていますよ。しかし、施設の管理運営、全て7区の住民の、逆に言えば財産なんですね。そこを町が使いますよと、使わせてくださいという場合は、当然何らかの協定というふうに言えばあれでしょうけれども、何か約束事をしておかなければならないんだということなんですね。簡単なことなんですよ、本当は。簡単だけれども、しておかなければならない重要なことなんですよ、本当はですね。ぜひお願いいたします。

それから、これはよく言われるんですけれども、予備避難も含めて、避難場所として区公民館を指定されているけれども、案外、住民の方は知らないんですね。例えば、ここは7区の予備避難場所ですとかいうぐらいの形、例えば土石流の場合は、1区、2区、4区、6区とか、避難場所としてわかるような目印としてもそうですけれども、やっぱり看板設置をしなければならないと私は思いますけれども、これどうでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

避難所の看板設置は、実施の方向で検討をしたいというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

よろしくお願いいたします。

それから、各区の活動を把握されているのかという形で、報告書等が上がっているというふうに言われております。大変いろんな活動がされているんだろうなというふうに私は思っております。

それで、一つは、これは今は教育学習課になると思いますけれども、どれぐらいの活動が

されているのかという把握はされていますか。

○議長（鳥飼勝美君）

原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

各区から実績報告として上がっておりますので、自治会の活動、全体の報告がありますけれども、全部が全部、公民館活動というわけではございません。うちの基山町自治公民館活動費に対する補助金交付要綱という要綱に沿っての補助となりますので、それに規定される対象事業といたしましては、社会教育法第22条に規定しております事業として、公民館長が主催する各種の講座、講習会、後援会、そのほか体育とかレクリエーションに関することとか、住民の交流会に関することというようなことが対象ですので、その中からピックアップをしている次第です。具体的には各区の運動会とか、春祭りとか、秋祭りとか、清掃活動、高齢者と子供の交流会とか、そういった公民館法にいう活動趣旨に添った活動について補助をいたしているところでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

私は、7区の運営委員会には参加させていただきまして、7区の公民館のそれこそ年度初めには、平成25年度の事業報告、それと実績報告ですね。それと、平成26年度の事業計画についてはいただいております。大変多くの取り組みがされているんですね。ちょっとこれ参考ですので。（町長に資料を示す）こういうのが、多分1区から17区まで全て上がってきているというふうに思います。これを精査してみると、どれだけ本当——これ必ずしも区の公民館事業ですので、区公民館を使っているわけじゃないんですね。しかし、物すごくやっぱりいろんな取り組みがされているんですね。この7区の平成25年度の実績だけを見ると、それこそ運営委員会とかは別ですよ。事業として取り組まれているのが56事業。そして、それに参加者が2,064人。約2,000人ぐらいが7区の公民館事業に参加されているんですね。これは、先ほど言いましたように、公民館だけを使っているわけじゃなくて、区の公民館事業ですので、例えば7区はさくら祭りをしています。さくら祭りは、ことしの3月にもされているんですけども、これには235名というふうに書いてありますけれども、いろんな活動をされています。その中心が、やっぱり区の公民館なんですね。だから、この区公民館をいか

に今後のまちづくりに利用していくのか、高齢者福祉にも全てですけれども、そこを今から少し聞いていきたいなというふうに思っています。

それで、まず、人的支援とか財政的支援なんかも少し聞きましたけれども、活動費が各区に年間6万円。月にすると5,000円なんですね。先ほど言いましたように、いろんな事業がされておりますけど、もう少し私はこの補助をふやすことができないのかなというふうにも思いますけれども、これは、それこそ4月からまちづくり課のほうにかかわるというのを前提に話をさせていただきたいんですけれども、この辺について、町長はどのように思われますか、報告も見ながらでも結構ですけれども。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

公民館活動、自治会活動と言いますか、非常に活発に、こう言うと語弊があるかも知りませんが、特に7区に関しましては、活発な取り組みがなされておるということは、私も認識はしております。その中で、公民館、あの入れ物自体を使われているというのは、またその中のある部分だろうというふうに思います。したがって、それに対してどう、どの程度どう補助金なりなんなり援助をするかというようなこと、それはやっぱりしっかり捉えていかなきゃいかんというふうに思っていて、6万円というのも、以前からずっと6万円でございますので、その辺のところはこれからまた、各区の事情もございましょうし、取り組み方もあるものですから、また考えさせていただきたいというふうに思います。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

現在が、年間6万円の活動しか今補助をしていないと、この公民館活動に対してはですね。ただ、まちづくり基金を活用した取り組みはまた別にありますけれども、そういう認識を持って、本当にこれで十分なのかというのは検証をしていただきたいなというふうに思っています。

それから、もう1点は、自治会活動保険料が4割補助という形で先ほど説明を受けました。7区しか私は資料を持ちませんので言いますけれども、7区が、例えば自治会活動保険料として払っているのは5万8,650円なんですね。これに対して、4割補助がされていますので、

実際は2万3,460円が保険料として町から補助がされているんですね。しかし、言いましたように実際は5万8,650円が保険料だけでもかかっていると。

それから、建物ですので、当然火災保険がありますね。火災保険が4万2,000円。7区は、保険料に合計10万650円実際は払っているんですね。しかし、先ほど言いましたように2万3,000円という形ですので、私はこの建物自体——活動に対しての保険料、これは例えば今まで運動会とかいろんな取り組みもしていますし、それに対して、もし何かあった場合はこの保険料を使うんですね。だから、こういう保険、最初は4割補助ではなくて100%補助するんだというのをまずしなければならぬのではないのかなというふうに私は思いますけれども、この辺の考え方はどうでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

基本的に、この補助金というのは予算の範囲内で出しておるんですけども、この自治会活動につきましては、全体が公民館活動ということではありませんので、その辺のパーセントがこれでいいのかどうかという議論はあるかもしれませんが、従来より、この補助ができた当初より4割補助ということできておりますので、現在のところ、一応このままの額、パーセントを考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

今から先、まちづくり課、町長部局のほうに移して、この区公民館を積極的に活用も検討したいというのが1回目の町長答弁の中にもあるんですね。そうすると、まず、その建物自体をやっぱりきちっと、保険等については全額町が補助しますよとか、活動についての保険等についてはしますよというのが、まず前提としてあってもいいかなと。そして、活動そのものに対しては、町長が1回目の答弁で言われましたように、ただ単に補助するだけではなくて、町と一部事業を協働でやるとかというふうな補助の仕方、これは私も賛成なんですね。しかし、その前提となるこういう保険については、町が全額補助しますというのがあってもいいかなというふうに私も思いますので、先ほど今後の検討課題というふうなことも言われておりますので、4月以降の新しい町長部局になる中ではぜひ検討をしていただいて、でき

たら3月の平成27年度当初予算の中にはこういうのも盛り込んでいただきたいなというふうに思いますけれども、町長の考えを少しお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

教育学習課長も申しましたように、それから先ほど私も申し上げました、その辺のところも含めてひとつやっぱり見直していく部分もあろうかというふうには思っております。ここでどうこうということまではちょっと申し上げ切れませんが、そういうことで。

それから、いわゆる自治会という考え方もございましょうし、それから、保険となると今度はボランティアの部分も関連してくるし、その辺のところとの兼ね合いもやっぱり考えるべきだろうというふうには思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

今さら先、いろんな活動を区公民館がする中では、特に保険とかは大事な中身とかにもなりますので、また検討をしていただきたいというふうに考えています。

それで、先ほど、鳥栖市との相互避難や原子力災害の避難について区公民館の活用、特に2区と7区の活用の受け入れをお願いしているというふうなことを言われまして、容積、設備に不備がないのかというふうなことも申し上げております。それこそ、この受け入れについては、私は先ほども言いましたように協定も結ばなければならないというふうに思いますけれども、協定を結んだ場合、例えば7区に42名を受け入れると。じゃ、今の7区の公民館が42名を受け入れるだけの容積があるのか。もし何かのときに設備が整っているのかというのも検討をしなければならないと。しかし、そのときに、いや、これじゃやっぱりだめかなと。もう少し拡張をしなければならないとか、増築をしなければならないという場合は、この規定からすると、補助の最高が4分の1の400万円しかないんですね。だから、この辺では、先ほど協定の関係でも出てくるんですけども、これで本当にいいのかという部分の関係もありますけれども、これについて、少し見直しも含めて検討をしていこうというのはありませんか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

この避難所の指定によりまして、各公民館の建設費の補助をしていくという考えは今のところ持ってはおりません。ただ、避難所としておりますのは、その現存する公民館を避難所として利用していこうという考え方に立っていますので、今のところは考えてはおりません。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

ここ、私も少し慎重な発言もするんですけども、というのは、実情が、7区にしても2区の公民館にしても、7区の場合は42名を受け入れることができるというふうになれば別に問題ないですね。しかし、今から先ちょっとこれではいろんな面で不備があるとなれば、またそれも検討の材料になるんだと。そのときに、そういう形で町は4分の1しか補助しませんよというのが本当にいいのかという問題も私はあるというふうに考えますので、この辺については、今後の検討も含めてしていただきたいなというふうに思っています。

それから、問題はそれこそ今財政的支援、建物の増築なんか物的支援も含めてですけども、人的支援なんですね。今からの区公民館の活動に対して。基山町は、それこそ地域担当職員という制度、大変この地域担当職員の制度は本当はいい制度ではないのかなと。各区に職員3人を配置する中でですね。しかし、十分それが機能しているのかという部分では、ちょっと不満もあるんですね。どうですか、もう少し何かうまく活用を、今度4月以降、また何か新しく考えようとかいうのはないですか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

地域担当職員につきましては、私ももう少し活躍していただきたいなという気持ちは実のところ持っております。ただ、当初の目的で申し上げておりましたとおり、各自治会の要請に基づいてということをしておりますので、私どものほうがもう少し各自治会に働きかけをすべきかなというふうには考えております。4月からどうなんだということをおっしゃいましたけれども、現状、その辺のことを少し考えていかなければならないということは担当と話をしておりますけれども、来年度から、特にこういうことをやるということは現在のところ

ろまだ予定はたっておりません。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

それこそ、新しくまちづくり課のほうでも議論をしてほしいなというふうに思っているんですね。確かに、今は各区のほうが要請して、参加要請も含めて取り組み計画の策定についての要請とかされていますけれども、やっぱり各区の区長さんとの意見交換がやっぱり少な過ぎるのではないのかなというふうにも思うんですね。例えば、区の運営委員会、各区に3名割り当てをされていますけれども、3名が3名とも必ず出席することは必要ないとは思いますが、例えば1名でも結構ですから、運営委員会に参加をしていただくと。そうすると、それを聞いた担当職員の方が、あと残りの2人の方に、きのう運営委員会ではこういう報告があつてこういう取り組みがされるよと。12月では、例えば7区はシニアの集いがされるよとか、いろんな取り組みがされるよというのを共通認識、情報の共有を私はすべきなんだと。そこがまず、決定的に不足しているのではないのかなというふうに思います。これについては、ぜひ検討を——ここで回答はもう要りません。検討をしていただきたいと。それこそ、どのような出席の仕方をするのかというのは、それこそ執行部のほうで考えていただきたいというふうに思っています。

それから、少し時間もありませんので、飛ばしますけれども、いつでも集える区公民館としての活用に支援はできないのかというふうに言いましたけれども、今でも、既に多くの区がさまざまな取り組みをされています。ここに、それこそ町が発行している部分ですね。12月の予定表、これ1つだけ見ても、いろんな取り組みが各区、区公民館を活用してされているんですね。例えば例として、15区の趣味の作品展、9日から18日までですね。当然、これは区の公民館を活用して作品展をされるんだろかなというふうにも思いますし、8区のほうは20日に子どもクラブで門松づくりとか、17区もミニ門松づくり。15区は23日に餅つき祭りをされますし、7区は、7区のシニアの集いを16日に行うというふうに、いろんな活動がされているんですね。そういう中で、意見交換をぜひしていただいて、今後の支援に生かしていただきたいと。意見交換をする場合、じゃ、誰と意見交換をするのかといった場合には、今これを主体的にそういう取り組みをされている、例えばふれあいサロンの方とか、老人クラブの方、または、場所によってはNPOとかCSOも入っているところもありますし、区

の運営委員会も当然入りますけれども、年度計画をする、1年間の計画をする場合に、例えば年度初めとか、年末の終わりでも結構ですけれども、意見交換をやっていこうと。この区公民館を活用する1点に絞って意見交換をやろうという考え、そういう発想を持ってませんか。

○議長（鳥飼勝美君）

原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

現在、各区の区長さんが公民館長ということになっております。町の公民館連合会の会議でも顔を合わせますか、団体長連絡会の後での区長会とかも開催しておりますので、それぞれの意見交換をされているというふうには思っております。ただ、年度初めに公民館活動の特定の事業についての意見交換というのは今まではされていなかったかもしれませんので、そういったことについてはお話をさせていただきたいと思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

それこそ私もどれだけの活動がどういうふうに行ける、それがすぐにできるというふうには思わないんですね。しかし、そういうのを繰り返すことによって、それこそ先ほど少し情報の共有化も言いましたけれども、ほかの区さんはこういうのをされている、この区はこういう活動をされていると。これだったらうちの区もできるんじゃないのかなというふうな発想を持つ中で、新たな区公民館の活用が模索できるのではないのかなというふうに思うんですね。そのためには、やっぱりある程度集っていただいて、話をしたほうが良いというふうに思いますので、ぜひとも、これについてはしていただきたいなと思っております。

それから、それこそ区公民館を活用する中で、いつでも集えるというふうに言いましたけれども、今、高齢者の方、私の住んでいる7区もそうですけれども、ひとり住まいの方とか、なかなか遠くまで出られないという方も、区の公民館までだったら行けるかなと、歩いていけるかなというふうな方は結構いらっしゃるんですね。だから、先ほど言いましたように、区で公民館を利用して活動すれば、結構、高齢者の方がやっぱり楽しみに来られるんですね。だからそういう面では、毎日、区公民館を開放するというのはできませんけれども、例えば、週に2日なり3日なり、それぞれの地区で、例えば1区の公民館は区のほうで話をしていたら、月、水、金の3日間の午前中は無理だけれども、昼からならあけることができる

よと、開放することができるよというふうな取り組みをされた場合に、必ず開放すれば、そこに管理人というふうな名前がいいかどうか分かりませんが、そういう人がやっぱり要るんですね。開放して誰もいないというわけにはやっぱりいけないんですね。特に、高齢者の方は来てもらって、ちょっとぐあいが悪くなったとか、トイレで倒れたとかという問題もありますので、必ず誰か管理人が要ると。これをどういう形かは別として町もかかわって、それこそ人的支援、財政的支援も含めてですけれども、できないかなという発想を私は持つんですけれども、こういう取り組み、具体的な問題を言いましたけれども、こういう発想を検討しようという形にはなりませんか。

○議長（鳥飼勝美君）

原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

そういった活動が民生委員とか、そういう方たちも各区におられますので、ぜひ公民館長主催でしていただきたいというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

必ずこれは、先ほど言いましたように、区公民館は自治公民館としてそれぞれの区の施設管理運営についても自主性を尊重するというのがまず前提なんですね。その中でやっていこうということに対して町がどのような支援ができるのかというふうな発想の中で私は言っていますので、これをしてくださいよと町が余り決めつけると今度それが負担になる場合がありますので、この辺もぜひ話をしながらというふうに思っています。

それから、次に、それこそ放課後児童クラブ、または放課後子ども教室事業を統合する中で、この公民館を活用できないのかなということで、今後の検討も含めてしていきたいというふうなことを言われました。ちょっと確認ですけれども、平成26年度の協働化事業で、放課後子ども教室事業が廃止になっていますね。私もずっと見ていたんですけれども、平成24年度までは協働化事業の中に入っていますけれども、平成26年度の協働化事業にはこれは入っていませんね。これは、どういう理由で入れていないんですか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

この協働化事業は、町のほうから町民の方々と皆さん方と一緒にできる事業ということで各課のほうから事業を提出させていただいて、町民の方々から御提案いただいた分について新に取り組み始めるということで始めさせていただいた事業ですので、町のほうから提案をさせていただいても、ちょっとお声が上がらなかったために取り下げをしているという状況でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

だからこそ、多分提案が、この協働化である程度絞った中で枠をはめたんじゃないのかなと私は思ったりするんですね。だから、もう少し緩いといいましょうか、できるところを支援しますよと、それこそ放課後子ども教室事業にしてもですね。そういう中では、新たな発想も持つべきではないのかなというふうに思いますので、お願いいたします。

それから、これは私確認したいんですけれども、放課後児童クラブに通っている子供は、教室で遊んだり勉強したりとかされていますね。帰宅した子供は、今、どのような生活を送っているのかと、夕方までとかですね。当然、塾に通っている子供もいますよね。ところが、私は——私の小さいころはそれこそ外で遊んだりとかしていたんですけど、今、地域で外で遊んでいる子供を見ないんですね。家に帰ってゲームをしたりとか、テレビを見たりとか、勉強していることも当然ですけれども、この辺の帰宅した子供の生活実態といいましょうか、これは教育学習課のほうは把握されていますか。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

特に実態を調査して把握しているわけじゃありませんが、今、子供たちにはある程度の宿題といえますか、課題を出しておりますので、勉強はある程度させるようにはしております。そのことについて、1日の生活をどのように生活したかというのを学級担任が把握できるようにはしております。その中に自由時間というのは子供たちが書いておりますが、その自由時間を何に使ったかというのは、テレビを見たり、読書をしたり、外で遊んだり、そのほかに塾に行ったりということもあると思いますが、はっきりしたものはつかんではおりません。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

それこそ、私が小さいころの生活環境と今の生活環境は違いますから、遊ぶにしても、親御さんにしても外で遊ぶ、もし何か事故、交通事故も含めてですけれども、物すごく心配があるから、1回家に帰ってくれば、案外外には出ていったらだめよと、家で遊びなさいとか、勉強もありますし、塾は当然行っている子供もいますけれども、案外そうじゃないかなという気もするんですね。私は、この区公民館を活用しての子育てをする中では、やっぱり子供たちが放課後児童クラブもそうですけど、みんな生き生きと遊んだりとか、お互いに勉強したりとか、じゃれ合ったりとかいろいろしているんですね。そういうのが今、子供たちに大変少ないのではないのかなと。学校では当然しておりますけれども、学校から離れたところ、同じ学年だけじゃなくて、上級生、下級生がいる中で一緒に遊ぶとか、そういう情操教育といいでしょうか、そういうのが大変大事なのではないのかなと。その1つに、区公民館を活用できないかなと。そこに放課後児童クラブも統合できれば一番いいんでしょうけれども、それが毎日開催できるかどうかわかりませんので、難しい面もありますけれども、何かそれも、例えば言うように、区公民館の活動の中でそういう発想を持てる区があれば、それに対してやっぱり町のほうが支援をしていくとか、そういう発想がまず必要ではないのかなと私は思いますけれども、こういう考えを今後研究していこうという形では、先ほどの答弁でもありますけれども、いいでしょうか。もう1回確認させていただきます。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

もともとやっぱりこの放課後児童クラブ、これは町でどうのということ、それも当然必要なんですけれども、各地域で、本当にどなたか面倒を見ていただいて、やっていただけたら、そういうところもあるやに聞きます、よそでは。それに補助がどうなっているのかどうかはわかりませんが、やっぱり地域で、ボランティアでというような形もあろうかと思えます。そういうのが本来ならばいいなと、それが本当かなというような話は私どももやっておりましたけれども、まだそこまではいっていないと。だから、その辺のところを本当に各區で、とまでいくかどうかわかりませんが、そういうことでやっぱりやれたらなとい

う思いは確かに持っております。それをどう進めて、補助をどうするかというようなことは、ちょっとまだ今のところ言えません。

○議長（鳥飼勝美君）

重松議員。

○6番（重松一徳君）

私も、まだ頭の中では考えるんですけども、それが具体的な取り組みとしてどういうのができるのかというのまで、まだ少し発想もありません。それこそ、実際に区公民館でいろんな活動をされているサロンの人とか、老人クラブとか、区長さんも含めてですけども、私は、そこで意見交換をする中で、それが少しずつ具体的になりはしないのかなという気がしているんですね。

それで、もう時間もありませんので、最後ですけども、私も、単純な地域活動への補助という形ではなくて、それこそ町長が言われましたように、町の事業の一部を地域と協働で行うと。それに対して補助をしていくんだという観点、私はそれについては賛成なんです。だから、そういう面ではぜひともやっていただきたいというふうに思っています。

一つは、その取り組みの中で、先ほども言いましたけれども、12月16日、これ7区のシニアの集い、第6回になります。町長にも、三度か四度来て、見てもらったことがあると思いますけれども、ぜひこういう地域の活動にまず足を運んで見ていただきたいというふうに思っています。

それで、最後になりますけれども、松田副町長、7区ということでもありますので、16日ちょっと都合の関係もあるかもしれませんが、来ていただきたいというのをお願いして、それと、今、町長と少しいろいろな意見交換をしましたけれども、松田副町長の考えを少し伺いまして、私の一般質問を終わります。

○議長（鳥飼勝美君）

松田副町長。

○副町長（松田一也君）

じゃ、16日はまず必ず参ります。

それから、今ずっと議論を聞いていて、やはり地域で、今14カ所の公民館は回ったんですけども、まさに作品展をやっているようなところもありました。ただ、今、抜けているなと思ったのが、幾つかの公民館の合同でやるような催し、それから、基山町以外の人たちを

呼び込む催し、そういったものもやっていくべきで、そういうものにむしろ町は補助するとか、一緒にやるべきで、その地域で皆さんが楽しむ分については皆さんでやっていただくというふうな考え方、こういった考え方をこれから1年ぐらいかけて新まちづくり課できちんとやっていったらいいんじゃないかなというふうに思っております。（「これで終わります」と呼ぶ者あり）

○議長（鳥飼勝美君）

以上で重松一徳議員の一般質問を終わります。

ここで、11時20分まで休憩します。

～午前11時10分 休憩～

～午前11時20分 再開～

○議長（鳥飼勝美君）

休憩中の会議を再開し、次に、神前輔行議員の一般質問を行います。神前輔行議員。

○1番（神前輔行君）（登壇）

こんにちは。1番議員の神前輔行です。お昼前の傍聴をいただきありがとうございます。

今回、私は3項目質問させていただいております。

まず1項目め、駅前開発について、2項目め、放課後児童クラブについて、3項目め、基山町障害者基本計画策定について。

まず1項目めの駅前開発についてです。

基山の玄関口の一つである駅前にぎわいは人口増にもつながると考え、今回どのような今後開発がされていくのかという観点から質問をさせていただきます。

1問目、現在の基山町が基山駅を見たとき、どのように見ているのか示してください。

2、駅1階の空き店舗について、町として関与しているのか、誘致できるのか。可能であれば誘致しているのか。

3、駅前の看板はどこのもち物なのか。かなり古くなっているが町で受け持って管理したほうがいいのではないのでしょうか。

4、駅前の立体駐輪場は現在使えないが、今後どうなるのか。

5、朝夕の交通量が多いが安全対策はどのようなになっているのか。

2項目めの放課後児童クラブについてお尋ねいたします。

先日、委員会で放課後児童クラブの指導員と意見交換をさせていただきました。そのとき

の話をもとに質問させていただきます。

- 1、ひまわり教室、コスモス教室の現状と課題を示してください。
- 2、指導員の賃金、労働時間の改定は考えているのか。
- 3、指導員の主な業務は何か。
- 4、指導員が現金を扱うことがあるのか。
- 5、コスモス教室が外で十分に遊べていないが、今後もこの状況が続くのか。
- 6、ひまわり教室Cクラスは福祉交流館を利用するようになっているが、現状はどうなっているのか。
- 7、Cクラスが福祉交流館を利用する条例は廃止をするのか。

最後に3項目めです。基山町障害者基本計画策定について質問いたします。

今回は町がアンケート調査を行っておりますが、そのアンケートについて主に質問をさせていただきます。

- 1、基本計画策定に当たりアンケート調査を行っているが、成果は出ているのか。
- 2、アンケートで尋ねられていることが漠然としているように感じられるが狙いは何か。
- 3、今後のスケジュールを示してください。

以上で1回目の質問を終わります。御答弁のほうをよろしく願いいたします。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）（登壇）

神前輔行議員の御質問にお答え申し上げます。

まず1項目めでございます。駅前開発についてということ、(1)現在の基山駅を町としてどのように見ているのか示せということです。

さきに実施いたしました懇談会においても、基山駅前、けやき台駅前が寂しい、暗いという意見はお聞きをしております。特に、博多など明るい駅から電車に乗り込んで基山駅で下車しますと暗く感じられるかと思っております。これらのことは、基山町へ来町された方にマイナスのイメージを与えるのではないかと考えておるところでございます。

(2)の駅1階の空き店舗について、町として関与、誘致できるのかということ、可能であれば誘致しているのかということでございますが、JRの不動産部門を管理しているところを確認をいたしましたところ、熊本市や鹿児島市など大都市では、地域の産物の販売所を設

けたりしているようです。特に誘致として自治体が関与しているところは、認知していないとのことをございました。

(3) 駅前の看板はどこのもち物なのか。かなり古くなっているが町で受け持って管理したほうがいいのかということ。

当該看板は、木山口商店会の所有物となっており、現在、木山口商店会で活用を考えられているようでございます。

(4) 駅前の立体駐輪場は現在使えないが、今後どうなるのかということ。

現在、2階につきましては通路及びひさし部分にコンクリートの剥離が見られますので、安全面を考慮し使用中止としております。今後につきましては、平成27年度に駅前駐輪場の新設工事を予定しておりますので、駐輪台数がどう推移するかを見きわめて方針を決定していきたいと考えております。

(5) 朝夕の交通量が多いが安全対策はどのようになっているのかということ。

基山駅は、快速電車がとまるため、企業の送迎バスが増加し朝の通勤時間は相当混雑しておりましたので、送迎バスの頻度が多い企業に協力をいただき乗降口を駅前から移転しましたので、混雑は相当緩和できたというふうに思っております。また、平成26年3月に送迎バス運行をしている全ての企業等による基山駅前広場利用検討会を立ち上げ、安全運行のための協議を行っております。

2項目め、放課後児童クラブについて、(1)ひまわり教室、コスモス教室の現状と課題を示せ。(児童、指導員、場所)ということ。

ひまわり教室の現状としましては、入所児童数が年々増加しており、本年度は定員を増加し、福祉交流館の一室を使用し運営を行い、待機児童を出さないように対応しております。

コスモス教室の現状としましては、入所児童数は徐々に減少傾向にあり、これまで二クラスで運営をしておりましたが、本年は一クラスでの運営を行っております。

指導員の現状につきましては、年度当初では必要最低人員の確保はできておりますが、長期休業中の人員確保に苦慮しているところがございます。

ひまわり教室では、入所児童数の増加による指導員の確保及び保育場所の長期にわたる確保について課題がございます。また、コスモス教室では、指導員の確保及び十分な外遊びができる場所の確保について課題があります。

(2) 指導員の賃金、労働時間の改定は考えているのかということ。

平成27年度からの改定に向け検討をいたしております。

(3) 指導員の主な業務は何かということですが、指導員の主な業務は、児童の適正な生活や遊びの指導に関すること、児童の安全管理及び衛生に関すること、出席簿及び日誌の記録等の事務処理に関すること、家庭や学校及びこども課への連絡に関すること、その他児童クラブの運営に関することとなっております。

(4) 指導員が現金を扱うことはあるのかというお尋ねです。

利用負担金及びおやつ代を取り扱っております。

(5) コスモス教室が現在外で十分に遊べていないが、今後もこの状況が続くのかということですが。

現在、コスモス教室では屋外の遊び場として、若基小学校のグラウンド及びアーバンロック広場を使用しております。ただ、保護者が迎えに来る時間帯は、指導員の管理が十分行えるようアーバンロック広場や教室近くの遊具で遊ぶように指導しております。アーバンロック広場では、学校での決め事によりボール遊び等が制限されているため、子供たちが思うような遊びはできていない状況がございます。このことにつきましては、学校と問題解決へ向け協議を行っているところでございます。

(6) ひまわり教室Cクラスは福祉交流館を利用するようになっているが、現状はどうなっているのかということですが。

現在は利用者が少なくなりましたので、ひまわり館で児童の保育を行っており、福祉交流館でCクラスの運営は行っておりません。

(7) Cクラスが福祉交流館を利用する条例は廃止をするのかというお尋ねです。

放課後児童クラブ条例第3条で児童クラブの名称と位置を規定しておりますので、放課後児童クラブで福祉交流館を全く使用しない場合は、条例改正を行う必要があると考えております。

3項目め、基山町障害者基本計画策定について、(1)の基本計画策定に当たりアンケート調査を行っているが成果は出ているのかということですが。

アンケートは、障害者の日常生活の状況を調査し、計画の基礎資料とするために実施しております。その調査結果を分析することにより、町内の障害がある人を取り巻く状況や福祉施策、サービスへの意向を踏まえて計画を策定しています。

(2) アンケートで尋ねていることが漠然としているように感じるが狙いは何かということ

です。

アンケートは、障害者の生活状況等基礎的な資料とすることを目的としております。より細かな部分を把握するためにアンケートでは自由回答欄に御記入いただくようにしています。また、障害者やその父母から直接御意見をいただくために障害者団体との意見交換会を実施いたしました。

(3)今後のスケジュールを示せということです。

平成26年12月13日にワークショップ、平成27年1月29日に第3回策定委員会、2月上旬に第4回策定委員会、2月中旬から3月にかけてパブリックコメント、3月下旬に第5回策定委員会を開催し、3月中の策定完了を予定いたしております。

以上です。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

それでは、一問一答に移らせていただきます。

駅前開発については、今後どのように町が駅前を活性化していくのかというのを知りたいので質問をさせていただきます。

先ほど町長の御答弁で、来町された方にマイナスのイメージを与えるということだったんですけど、私もそのように感じていて、今回ちょっと細かい部分まで質問をさせていただいております。

町のほうとして、このマイナスイメージを払拭するには今後どのように展開していく、開発していくようにお考えでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

駅前がやっぱり暗いというのは、非常に町長申しましたとおりマイナスイメージを与えるのではないかとことは考えております。

ここ20年、開発されて30年ぐらい、モール商店街のときに開発されたもので、私もちょっと考えていたんですけども、恐らくモール商店街をつくりましたので、商店はあちらに集約して駅のほうにはそういうものはあんまりつくらないという発想だったんじゃないかと

思っております。その後、20年ぐらいはどなたも暗いなんていうことはおっしゃらなかったんですけど、最近皆さん暗い暗いというふうにおっしゃいますので、何でかなと思って考えていたんですけども、実を言うと、LED化したのが1つの原因かなというふうには考えております。

それで、LEDで暗くなったというところは確かにあろうかと思えます。LEDで暗くなったから歩きにくくなったという話は全然聞かないわけで、その辺は考慮してLED化をしておりますので、そういうことは問題ないんですけども、印象としてやはり暗くなったというのはあるんじゃないかというふうに考えております。この辺につきましては、やはり少し考えていかなきゃいけないなというふうに考えております。

それから、再開発の話ですけども、これにつきましては、不動産業者等の意見も聞いておりますけれども、やはり地価が上がらない状況の中で再開発というのはなかなか難しいんじゃないかというふうに聞いておりますので、再開発をすぐにとすることはなかなか難しいかなと思っております。

以前から申し上げておりますとおり、やはり役場周辺のことを少しずつやりながら、そういう時期になりましたら、またこういうことの検討ができる時期が来るんじゃないかというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

LED化で暗くなったというのを、ちょっと意味がわからなかったのもう一度説明していただきたいんですけど、先ほど御答弁いただいた基山駅が暗く感じるというのは、にぎわいがなくて暗く感じるのか、それとも電球の明るさが足りなくて暗く感じていると、私は暗く感じるというのはにぎわいがなくて、そこをもう少し、今にぎわいが無いのでマイナスイメージを与えているから、にぎわいを取り戻すためにどうしようかという話だと思っていたんですけど、電球の話になるのかな。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

これにつきましては、先ほど昔の話をしましたけれども、にぎわいが無い、暗く感じられるというふうに言われましたのはここ数年の話でございます。それまではモール商店街ができて、当初からあそこに店舗というのは食堂が1軒あったきりで、特にほかにお店があったわけではございません。だからその当時は特に駅前が暗いとか、そういう話は全然聞かなかったわけでございます。しかし、近年特に暗いという話は出てきましたけれども、それをずっと考えていたんですけれども、もともとあそこは白い大きな球の電球をつけていたわけですが、それをLED化になったとき経費節減もできるんじゃないかということでLED化した経緯があります。そういうところで、イメージとして皆さんがやはり暗く感じるようになったんじゃないかというふうには認識しております。

今、神前議員がおっしゃいましたとおり、商店がないからイメージとして暗いんじゃないかということも思っておりますけれども、やはり従前はそれがなくて、皆さんどなたもおっしゃらなかったんですけれども、最近そういうことが言われるようになりましたので、ひとつLED化の問題もあったのかなというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

ちょっとよく理解できなかったもので、また今度お尋ねしたいと思います。

次に行かせていただきます。

駅の1階の空き店舗について、JRの不動産部門の管理しているところに確認していただいたところ、熊本市、鹿児島市など大都市では地域の物産の販売を行っているということなんですけど、これは道の駅みたいなものを駅に持ってきて、地域の物産の販売をされているというふうにご覧になってよろしいんですかね。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

熊本市とか鹿児島市は大都市ですので、その道の駅というのも地域の物産をPRする場所としてのそういう店舗を開かれているということでございました。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

数年前、町長のほうで道の駅をつくるという話がありました。調査研究を行って、そのときはつくるまでには至らなかったんですけど、今、基山駅の1階にそういった店舗があつて、町が関与をしてやっているところがないということだったので、基山町内に各種団体ありますので、そういったところと話し合いをして、また調査研究と言ったらお金だけがかかってしまうので、前向きな話し合いをして、ここをどういうふうに、やはり基山の玄関口ですので、何か店舗があつてにぎわいがないと、そこがおりてすぐ空き店舗ですだったら何かすごく寂しい感じがするんですよね。ですので、ここをどうにか早く活用できないかというふうに考えておりますので、協議をしていただきたいなと思います。

次に、駅前の看板についてなんですけど、木山口商店会の持ち物で、先日商工会の意見交換会のときにお話もあつたんですけど、木山口商店会のほうも現状厳しい状況にあるというお話を少し聞かせていただきました。スピードを持って新しいことに取り組むというときに、町の玄関口ですので、町も協力をしてこういった立てかえ、新しくする部分で、活用を考へられているので任せっきりじゃなく、町も積極的に関与して商店会のほうと早くいいものをつくってほしいなというふうに考えます。

これは、先日JRウォーキングでおりにこられた方たちが、まずやっぱり一番最初に目につかれて、ふだんの基山の漢字と違う「木」を使われているので、すごい気になる方もいらっしゃったり、少し古くなっているという印象を与えるというところもありました。なので、結構目につくところにもありますし、いろんな方が見られます。ここをもっとスピード感を持って木山口商店会の方とお話をできないのか、いかがでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

先ほどの質問であれなんですけど、基山駅の1階のところの空き店舗については、今、JRのほうで話をされているということでございますので、そのうち何か決まるんじゃないかというふうに思っております。

それから、看板につきましては、商店会が考えているということでしたので、商工会に確認しましたらそういうことでしたので、ああ、そうかというふうに思っていたんですけど、まあ言われることはもっともな話ですので、少し商工会に何か方法がないかということは協

議をさせていただきたいと思います。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

はい、よろしく願いいたします。

次に、立体駐輪場についてお尋ねさせていただきたいと思います。

今現在、駐輪場として使えていないのが立体駐輪場が1カ所、2階が使えない状況になっていますが、駐輪場自体は結構駅前にあちこち今自転車がとめられていて、町外の方がぼつと見たときにあちこちに自転車がとまっていると、何か余り見ばえがよくない感じに受け取られるんですね。基山駅をおりて商店街のほうに向かっていく途中に飲食店がある細い通りに自転車がいっぱいとまっているんですけど、そこもやっぱり離合というか、行き来しにくいですし、あそこはもともと駐輪場というか、自転車をとめる場所なのでしょうか。そこは町が管理するところなのかというのをまずお尋ねさせていただきます。

○議長（鳥飼勝美君）

天本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（天本正弘君）

飲食店の隣につきましては借地がございます。その合い中にありますのは里道があります。そこにも実際現状のところは駐輪をいたしております。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

管理はここは町が。

○議長（鳥飼勝美君）

天本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（天本正弘君）

駅前の管理につきましては、全て町のほうで管理をいたしております。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

そしたら、平成27年に新設をされるということなんですけど、それまでの間、現状のまま4カ所ぐらいの駐輪場のまま管理していくというふうに考えてよろしいのでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

天本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（天本正弘君）

先ほど町長のほうからの答弁がございましたように、今度は駅に向かいまして右側ですね、それと現在ありますトイレの前の駐輪場の整備を行っていきたいというふうに思っております。

それから、それにつきましては、今後もやはり自転車の整理員さんといいますか、そういったものがありますので、そういった方を現在も活用しながら、美化といいますか、そういったものには十分整備をしながらやっていきますけれども、今後、それができるまでは現状の駐輪場を活用していきたいと思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

立体の駐輪場は使えなくなってから大分時間がかかっています。27年から新しく新設をして、台数も今後推移しながら見きわめて方針を決めていくということなので、できるだけ早くそういうふうにきれいに整理、美化していただきたいなというふうに思います。

次に、5番目の朝夕の交通量が多いが、安全対策はどのようになっているかということで御回答をいただいたのが、循環バスの運行に当たり、そのときに協議をさせていただいているというお話は委員会のほうでも聞かせていただいております。交通量が多くなるのも一般車両の送り迎えがやはり一番見ていて多いんですけど、その中に自転車、歩行者などが入ってきて、今回ちょっと聞きたいのが、そういった方の安全性を保つために、やっぱり多いのでぎりぎりのところをみんな走っているので、真ん中にタクシーの乗り場というか、停車位置というところがあるのを御存じだと思うんですけど、そこが朝タクシーがとまっていて、前のタクシー乗り場の乗客が乗車されてから、動いたら次の1台が出るという感じで、ここはほとんど停滞した状態なんですよね。ここをもう少し活用を、協議が必要だとは思いますが、ここで、ここをただとまっているだけじゃなく、もうちょっと安全面を考えて、このスペースもうまく利用しながら交通量を分散させるというふうにできないのかなと思っ

て、ちょっと今回、この交通量の安全対策はどうなっているのかというのをお尋ねしたんですけど、いかがでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

天本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（天本正弘君）

確かに、朝の通勤ラッシュのときには非常に混雑をしているというのは十分認識をいたしております。そこで、議員おっしゃいますようないろいろな方策、そういったものも我々も考えておりますし、その中に基山タクシー、そういったものも利用されておりますので、今までの既得権といいますか、そういったものもごございますので、そのあたりをよく考えながらですね、ありますので、一方的にそれをなくすということにはできないと思いますけれども、やはり安全が第一でございますので、その点は今後は考慮、また話し合い、そういったものをしていきたいというふうに思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

最初町長のほうで答えていただいたように、快速がとまる駅ですので、乗客も物すごく多い駅です。町民の安全と、その利用される方の安全を確保していただきながら、対策を打っていただきたいなというふうに思います。よろしく願いいたします。

それでは次に、放課後児童クラブについて質問をさせていただきます。

まず1点目に、最初にひまわり教室、コスモス教室の現状と課題を示していただきたいというふうに質問をしました。

ここは1点確認です。ひまわり教室の現状としては、入所児童数が年々増加しており、本年度は定員を増加し、福祉交流館の一室を利用し運営を行っているということだったんですけど、その後、6番目に福祉交流館を利用するに当たって現状どうなっているのかということでお尋ねしたところ、現在利用者が少なくなっているので利用していないということなんですけど、最初の答えは増加しているので福祉交流館を利用する。あとのお答えは利用者が少なくなっているという回答をいただいています。このほうをもう一度説明していただいているんですか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

まず、学校開業日の申し込み者が増加しているのは事実でございます、その際、対策としまして平成26年度から福祉交流館の一部をお借りして児童クラブを運営するという事で当初予定をさせていただいて、実際に春休み4月、5月あたりは実際に利用してきましたけれども、長期休業中といたしますか、春休みが終わりまして、新学期になりますと人数が減りましたので、一応福祉交流館での利用は6月ぐらいからはやめております。ただ、夏休みのまた利用が多くて、それはもう50人以上の申し込みが、増がありましたので、とても福祉交流館では対応できませんでしたので、そこは昨年と同様にランチルームの利用をしたということで、福祉交流館に限って申しますと、当初は利用をしましたがけれども、ニーズが減少しましたので利用しておりませんということで、現状としてはこのような6番の回答をさせていただいております。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

そしたら、ちょっともう1点確認をさせていただきたいんですけど、まず最初にひまわり教室で利用定員数が増加してしまった場合は、その次はランチルームになるんですか、それとも福祉交流館が先なんでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

現状のところでは、ひまわり館が多くなれば福祉交流館を活用するという形で考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

そしたら、夏休みで多くなったときは、福祉交流館じゃなくランチルームを利用されたというふうに先ほど回答していただいたんですけど、そのときはなぜ福祉交流館を利用されずにランチルーム、福祉交流館を利用して、それでも入らないからまた教育学習課、教育委員

会と話をされてランチルームをお借りになったのか、そういったところをちょっと説明をお願いいたします。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

そもそも福祉交流館のほうでは上限20人程度で想定をしておりましたので、それを上回る申し込みがありましたので、そこではちょっと保育はできないということで、夏休みに限ってはランチルームを使用させていただいております。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

福祉交流館は、最初高学年だけの利用ということで言われていたと思うんですけど、高学年の児童がそれだけ大幅に、その期間だけ申し込みがあって、福祉交流館で利用ができないのでランチルームに利用したというふうになるんですかね。高学年を対象に福祉交流館は最初利用されるということだったので。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

当初からCクラスを高学年で限定ということではなくて、場所的にちょっと学校から離れておりますので、安全面等も考慮して高学年を中心に福祉交流館でCクラスの編制をということで考えまして、そのような当初段階ではクラス編制をしましたがけれども、現実的に長期休業中だけの申し込みは1年生から低学年の方から高学年までありましたので、夏休みだけの利用者の方をランチルームで新たなクラスとしてクラス編制をして、夏休みだけの特別編制みたいな形で、ランチルームで運営をしたということでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

そしたら、冬休みが近づいております。冬休みの申し込み状況がもしわかるのであれば、それを教えていただきたいのと、冬休みの利用者が多くなる場合は福祉交流館を利用される

御予定ですか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

現時点での申し込み状況としては、139人ぐらいの申し込みとしてはあるんですけども、例年ですが、なかなか申し込みはされてでも現実的にはちょっと、冬休みは期間的にもそんなに長くはないので、申し込みをしたけれども実際は来られないという方がいらっしゃって、昨年ですと、冬休みの実際の利用は80名程度になっておりますので、申し込みはしているけれども実際には児童クラブには来られないという方がいらっしゃいます。ですので、状況としては多分ひまわり館で可能かなと思っておりますけれども、それを超える実際の登校があれば交流館で運営を考えないといけないというふうに思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

利用者がふえた場合は、福祉交流館を冬休みも考えるということだったんですけど、課長も意見交換の場に同席していただいて、指導員の御意見も聞いていただいたと思います。やはり遊ぶ場所がない。近くの遊ぶところまで行ったら、やはり近所に住んでいる方の迷惑になったり、やはり部屋が狭いのでストレスがたまったりというなど、結構福祉交流館の利用をよく思っていないというか、利用しないのでできる限り運営していったほうが指導員のほうも楽みたい意見が結構あったと思います。そういった意見を踏まえてもやはり福祉交流館は今後ともずっと利用していくというふうに考えていらっしゃいますか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

当然それ意見としてはありますので、基本的には条例上でそこをうたっておりますので、そこを考えながらも、長期休業中であればランチルームの使用というのは可能になりますので、ランチルーム等の使用も含めて、ちょっと人数の、当然休み前には把握をしますので、その中で最終的な決定はしていきたいと思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

そしたら、今現状のひまわり教室のつくりについてちょっとお尋ねさせていただきます。ことしはにぎやかな生徒が多いということで、やはり結構指導員の方が手がかかっているということで、例年にないぐらいやはり目を光らせて指導していかないといけないというふうに言われていました。1つつくり的に、仕切りがないので音が部屋中、1階、2階というふうに聞こえてしまったり、騒々しくなったりということも言われていました。そういった仕切りなどを入れて、より環境を整えてあげるというのも必要なというふうに感じていたんですけども、いかがでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

音の問題につきましては、1階と2階でそれぞれクラスを分けていますが、1階の音が2階に上がってくるということで、1階のほうには低学年がいて、2階には高学年の子がいたりしますので、そのために1階の音が2階に漏れてくるということで、2階にアコーディオンカーテンというか、一応音遮断の仕切りというか、それをつけさせていただいて、下の音が2階には上がらないようにというのは現実に手当はさせていただいています。

ただ、1階、ワンフロア自体を仕切るというのは、広さの問題もありますし、人数の問題もありますので、なかなか難しいし、逆に仕切ってしまうと、また狭い部屋の中で音が鳴るというふうになると思いますので、そういう騒がしいということについては、建物の構造上、天井の高さとかの関係で音が余計に響くとかいうのはあるかもしれませんが、そこについては、構造上の問題だけではなくて指導員の体制等も含めて方策は考えていきたいというふうに思っています。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

次に、指導員の賃金、労働時間についてお尋ねします。

これは27年度に改定を行うということだったので、ぜひ前向きに検討をしていただいて、労働時間などふだん働きにくい時間帯で短時間で働いたりしていただいておりますので、ぜ

ひ改定のほうをよろしくお願ひいたします。

次に、指導員の主な業務なんですけど、これと指導員が現金を扱うのかというのをちょっと関連して質問をさせていただきます。

利用負担金、これは会計の会計責任者なんですかね、会計の方がお金を現金で預かって計算をしているというふうにお伺ひいたしました。やはり現場というか、その教室では現金を扱って子供さんの面もありますし、そこで計算ができないから一旦家に持って帰って計算をされているというふうにお伺ひいたしました。そういった結構大きいお金を持ち運びするということだったんですけど、これほかの現金徴収じゃなく、銀行振り込みとか銀行引き落としとか、指導員の業務も少し楽になっていくと思うんですけど、お金を扱うというのは結構やはり神経も使いますし大変なことだと思うんですけど、こういったところの改善の余地はないのでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

まず1点目というか、現金を取り扱っていただくのは主任指導員ということで、主任指導員のほうの業務の一つとして、そういったものも充てながら通常の指導員さんと主任指導員さんの賃金の差というか、それを含めたところでのお願いはしているところでございます。それ以外にも、ほかの指導員さんたちの指導だったり全体の指導とかいう形での主任指導員の業務はありますけれども、そういったところでお願ひしているところでございますし、ちょうど時期的に集金時期というのは、その何日間かの業務負担は当然ふえてくるとは思っています。ただ、現金も集まればうちの担当職員が負担金については現地に行って集金をさせていただきますという形にしていますので、連絡があればすぐに担当が回るというふうにしていますので、そういうふうな精神的な負担をなるべく軽減するということでは対応しているところでございます。

それと、最後に御提案されました口座振り替えとか、そういったことについては今後利用負担金とおやつ代のかわりと、口座振り替えにしたほうがいいのか、それとも現金で持ってきていただいたほうがいいのかということも含めては、今後少し検討をさせていただきたいと思ひます。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

現金の扱いについては、ぜひ十分に検討していただきたいなと思います。

学校及び指導員のほうが、こども課との連絡は密にできているというお話を聞かせていただいたんですけど、学校のほうと連絡が今指導員のほうから訪ねていったときにどういう状況ですかというふうにお話はすることがあっても、学校のほうから逆にこういうことがあったので注意していただけますかという、そういったお互いの連絡がうまく現状行っていないというふうにお伺いしました。ここは、もし可能であれば密に連絡をとっていただきたいなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

次に、コスモス教室、現在外で十分に遊べないが、今後このような状況が続くのかということまで話をしている、若基小学校のグラウンドで、課長も御存じのとおり蜂の巣があるから外で遊べなかったり、アーバンロックでボールが使えないということだったんですけど、週に1回体育館のほうを利用して遊ばれているみたいです。これがほぼ毎日体育館の予約が入っているから、ちょっと今把握していないんですけど、ここがもし空いているところでボール遊びができる日があるのであれば、学校と協議をして、できるだけそこを利用できるように、今の時期だけでもできるように検討できないか。

○議長（鳥飼勝美君）

内山こども課長。

○こども課長（内山十郎君）

この点につきましては、学校のほうの校長先生、教頭先生あたりと協議をさせていただいて、現場としましては、お答えでは決まり事というふうな形にしていますけれども、いろいろ現場の状況等も含めて、学校自体も使いたいけど使えない状況にあるということでは、一緒に今後検討はさせていただきたいということでは申し伝えています。

あと、指導員がとにかくやはり夕方の保護者の方が迎えに来られる時間帯に、やはり教室にも子供がいますし、外にも子供がいるという状況の中では、なるべく目の届く範囲内で遊ばせないと、ちょっといろいろ事故が起きたりする原因になりますので、そのためには遊具の周りとか、そこあたりも今後は学校教育係と協議しながら、蜂の対策とか、安全面の対策も今後協議をしていきたいというふうに思っていますし、体育館の使用につきましても、その時期、時期に応じた利用頻度等ができないのかどうか、そこは今後検討しながら、体育館

に行くともた全員が行くとか、ちょっと目の届かないところになりますので、通常の夏休みとかの長期休業中は、みんなでグラウンドに行って外遊びする時間とか切っておりますけど、学校開業日の夕方の時間帯がなかなかうまく遊べない時期があるということです。その点については、学校のほうとも協議しながら、なるべく子供たちが遊べるような状況をつくっていきたいというふうに思っています。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

よろしく願いいたします。

次に、3問目の基山町障害者基本計画策定についてお尋ねさせていただきます。

特に、冒頭説明させていただいたように、基山町の障害者福祉に関するアンケートについて重点を置いて質問をさせていただきます。

私、このアンケートをいただいて目を通したときに、非常に障害者に対してすごい軽視しているような質問の仕方だなというふうに受け取りました。

そこで、まず総務課長に1点お尋ねさせていただきたいと思います。

同和問題関係で質問をするときに、同居者はどなたがいらっしゃいますかという質問と、あなたは——まあ家族構成みたいなものですが、同居者について質問するのというのは、同和問題的には問題ないのでしょうか、それともこれはよくない質問なのでしょうか。アンケートで。

○議長（鳥飼勝美君）

もう一回、質問をわかりやすく。

○1番（神前輔行君）続

障害者福祉に関するアンケートの中に、あなたと同居している方がどなたですかという聞き方があります。ここで全て丸をつけなさい、家族構成を示してくださいみたいな質問の仕方があるんですね。この質問の仕方というのは、家族構成を聞くということは、今物すごくプライバシーの侵害だったり個人情報にかかわってくることなので、安易に聞けないことだと思うんですけど、このアンケート内では聞いていますが、これは何の問題もないのでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

アンケートをとる前に、その情報自体が外に漏れないというか、個人情報を取り扱いする場合は、ちょっと詳しく調べてみないとわからないですけども、そういう聞き方をすることがあるかもしれません。

ただ、例えば、採用の面接とか、そういう場合は、もう面接自体ではそういう差別的につながるような家族構成とか、そういうものについては、そういうのは聞かないということが一般的に言われている、面接とかはですね、そういうのは一般的に言われていることであります。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

わかりました。そしたら、これ以降は健康福祉課のほうに質問をさせていただきます。

アンケート内に、最初に障害者という方を対象にアンケートをとられています。これを発送された部数が約780部ぐらい発送されていると思うんですけど、この段階で、分母が少ないので、年齢、性別、現在の住まい、障害者が何人当てはまるのかというのを聞いてしまったら、どなたかというのが特定されてしまうんですよ、これだけで。その後に質問の内容として、同居者の全てに丸をつけてください。身の回りの世話はとか個人的な状況、また収入が幾らかという踏み込んだところまで質問をされています。個人を特定してしまうぐらい人数が少ないのに、さらに踏み込んでしまった質問が、これがもし情報が漏れた場合、その特定してしまって、こういった個人情報、プライバシーの問題だって全部流出してしまうおそれがあるんですけど、ここまで立ち入って聞く必要があったのでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

熊本健康福祉課長。

○健康福祉課長（熊本弘樹君）

まず、今回のアンケートにつきましては、対象者を障害者という形で限定させていただいておりますので、その数も800人程度でございますので、仮に今、神前議員がおっしゃったように、年齢とか性別、それから障害の程度を分析していけば、その年齢によっては1人しかいらっやらない場合もございますので、そういった意味では特定することも可能かと思

いますけれども、そもそも今回のアンケートにつきましては、町内の障害者の基礎資料とするために実施したものであって、回答者を特定して、その方々の意見を把握するということが前提になっておりませんので、そういったことは今御質問いただいたような具体的な情報が、個人の情報が流出するということは想定できないというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

情報を収集する側としてはそういうふうに捉えるかもしれませんが、情報を書き出して町のほうに提出する側としては、やはりここまで書く必要があるのかという物すごく不安が残るような内容で、本来ちょっと質問しようと思っていたんですけど、このアンケートですね、18年、23年、26年と続けられてアンケートのほうを実施されていますが、18年は72.1%の回収率、23年が65.4%、26年が52.9%、最初のころと比べたら約20%ぐらい回収率が下がってきています。一概には言えないんですけど、こういった内容で不安を抱えていたり答えにくかったりするので、この回収率もどんどん落ちていくというふうに私は少し考えたんですけど、もう少し内容を書き手のほうに親身になって回答して尋ねていただけないかなというふうに思います。

こういう聞き方で、ほかに何かひっかかってくるものはないのかなというふうに私のほうで調べさせてもらったら、障害者権利条約というのがあります。障害を理由とした人に対する政治権、経済権、社会権、文化権、市民権の全分野にわたる権利を基本的自由、あらゆる差別、排除、制限をしてはならないというふうに書かれています。全町民同じような聞き方をしないといけないというふうな捉え方なんですけど、中にはアンケートの中に、あなたは1年間どれぐらい外出しますかという質問だったり、先ほども言いました、あなたの月収は幾らですか、家族構成は、トイレは1人でできますか、少し手伝ってもらいますか、全部手伝ってもらいますか、1人で歩けますか、お金の管理は、服薬はとか、こういったほかの町民に対してアンケートをとられるときに聞かないようなアンケートの内容も含まれてきているんですよね。障害者権利条約をもとに言うと、こういった質問とふだんの質問、アンケート内容とはやっぱり差別をされているように感じるんですよね。なので、この質問の仕方がよくないんじゃないのかなという、ぜひこれ見直してほしいなというふうに思っているんで

すけど、いかがでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

熊本健康福祉課長。

○健康福祉課長（熊本弘樹君）

確かに全体的なお話の中でいけばそういった部分もあろうかと思えますけれども、今回策定いたします2本計画ございますけれども、基本計画と福祉計画とございますけれども、その中では、具体的なサービス項目ですね、例えば、介助が必要な方にヘルパー事業であったり、そういったところを分析していく中では、町内のそういった利用をされる可能性がある方がどういった状況にあるかというのを全体的な部分としてアンケートの中で把握していくのは必要性があるのではないかと思いますので、確かに、当然アンケートを行っていく上では、そういった人権であったり障害であったり、そういった部分のところには最大限配慮をすべきであると思えますけれども、こういった特化したアンケートをつくっていく中では、その計画に反映できる最低限のそういった内容は御質問の中には入れさせていただかなければならないのではないかとこのように考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

神前議員。

○1番（神前輔行君）

最低限必要な質問をしていかないといけないということだった。最初に戻りますと、個人が特定できてお金の問題だったり、その人のどこに住んでいるか、どういう住み方をしているのか、誰と住んでいるのかとか、そういった障害者を軽視した質問、最初に言いましたとおり内容があるなって、障害者権利条約っていうのをちょっと侵害しているんじゃないかなというふうに私は受け取りました。ですので、書き手の障害者に関しても、計画を立てられるのにしっかり相手側のことを考えて今後は計画を策定していただきたいなというふうに思いますので、今後、26年度の計画策定は慎重に相手のことを考えてよろしく願いいたします。

以上で一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（鳥飼勝美君）

以上で神前輔行議員の一般質問を終わります。

ここで午後1時20分まで休憩します。

～午後0時20分 休憩～

～午後1時20分 再開～

○議長（鳥飼勝美君）

休憩中の会議を再開し、次に、久保山義明議員の一般質問を行います。久保山義明議員。

○2番（久保山義明君）（登壇）

皆さんこんにちは。2番議員の久保山義明です。議長より登壇の許可をいただきましたので、通告に従い、2項目にわたって質問をさせていただきます。

今回は、通常より10分短い60分での質問になります。できる限りテンポよく、そして執行部の考え、方向性を中心にお尋ねいたします。どちらも国の政策にかかわる事項を選択しています。国の指針や法案を歴史的背景や人口動態、文化などが大きく異なる地方自治体として、どのように捉え、どう対処していくのかお聞かせください。

それでは、早速ではございますが、質問に入らせていただきます。

まず1項目め、公共施設等総合管理計画についてお尋ねいたします。

これは総務省から出された指針をもとに、各自治体にも義務づけがなされた計画の策定です。前回の9月議会でも答弁がありましたが、もう少し掘り下げながら、また別の視点で質問をさせていただきます。

では、まず(1)公共施設等総合管理計画の現在の状況及び対象となる建築物、インフラ施設数をお示してください。

(2)公共住宅等長寿命化計画及び都市公園施設長寿命化計画との関連性をお示してください。

(3)今後の公共施設等におけるPFI方式による可能性をどのように認識しておられるかお聞かせください。

次に、2項目め、空き家等対策の推進についてお尋ねをいたします。

これは昨年6月議会に上程され、継続審査を経て可決した条例とあわせて質問をさせていただきます。

(1)条例制定後の現状をどのように把握し、管理しているのかお示してください。

(2)現在の特定空き家、これは危険・放置空き家を指します。これの件数及びその対象の取り組みについてお聞かせください。

明確に的確な答弁をお願いいたし、1回目の質問を終わります。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）（登壇）

それでは、久保山義明議員の御質問にお答えを申し上げます。

まず1項目めの公共施設等総合管理計画について、(1)公共施設等総合管理計画の現状の状況及び対象となる建築物、インフラ施設数を示せということでございます。

公共施設等総合管理計画は、公共施設等の全体が対象となっていることから、町が所有する施設の現状の把握を行っているところでございます。

対象となりますのは、建物が27施設、道路が総延長13万8,695メートル、下水道管の延長が6万4,349メートルとなっております。

(2)公共住宅等長寿命化計画及び都市公園施設長寿命化計画との関連性を示せということでございます。

公共施設等総合管理計画は、町所有の公共施設等についての全体的な管理方法についての計画であり、そのもとに施設ごとの個別計画がございます。各分野の長寿命化計画は、その個別計画で策定されるものでございます。

(3)の今後の公共施設等におけるPFI方式による可能性をどのように認識しているかということですが。

総務省から示されている策定に当たっての指針の中にも、公共施設等の更新などに際しては、民間の技術・ノウハウ、資金等を活用することが有効な場合もあることから、PPP、PFIの有効な活用を検討されたいとあり、今後、更新の方針を打ち出した施策について、事業実施の手法の一つとして、研究、検討をすることになると考えております。

2項目め、空き家等対策の推進についてでございます。

(1)条例制定後の現状をどのように把握し、管理しているのか示せということですが。

町民による情報提供により把握するようにはしておりますが、現在情報はなく管理する物件はありません。

(2)現在の特定空き家（危険・放置空き家）の件数及びその対象の取り組みについて示せということですが。

空き家等対策の推進に関する特別措置法による特定空き家等についての調査は現在行っておりません。今後の取り組みについては、法施行後、国が示す指針等に従って検討していきたいと思っております。

(3) 今後予想される空き家の状況をどのように捉えているのか示せということです。

基山町は、これまでコンパクトなまちづくりを行っておりますので、市街化区域内ではそれほど空き家がふえるとは考えておりません。しかし、周辺部ではある程度の空き家が発生する可能性は否定できないものと考えております。

(4) でございます、特定空き家以外の空き家対策計画の策定についてどのように考えているかということですが、第5次の総合計画では、今後、発生する可能性のある空き家については、ある程度貸し手と借り手のマッチングは必要と考えております。

以上でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

まず、1回目の質問で、私が2項目め、空き家等対策の推進についての(3)今後予想される空き家の状況をどのように捉えているか示せ。(4)特定空き家以外の空き家対策計画の策定についてどのように考えているかということの質問をちょっと失念して飛ばしてしまいました。答弁は今いただきましたので、私のほうからおわびして訂正させていただきます。

それでは、2回目以降の質問は一問一答でお願いいたします。

また、先ほども言いましたように、10分短い質問時間でございますので、(1)から(3)まであわせて質問をさせていただきます。

まず、この公共施設等総合管理計画は、いつまでを目途に策定予定かお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

総務省の指針といたしますか、要請では平成29年度までの策定になっておりますけれども、本町としましては、来年度いっぱいの方針を目標に実施をしたいというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

来年度いっぱいということは平成27年度いっぱいということですね。随分スピード感のあ

る計画策定だなというふうに思っておりますけれども、これは計画の期間、これはどれくらいを策定の期間として充てるのかお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

10年を考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

確かに指針では、最低10年ということですが、なぜ10年というふうに決められたのかお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

計画の中では、人口の大まかな推移とか財政の推移をもとに指針というか、方針を示すようになっておりますので、10年、20年先、30年先を見据えるということになりますと、人口につきましても、財政につきましても、現実とかけ離れたものになる可能性もございますので、一応10年をめどとして考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

先ほど建築物、インフラ施設の数について答弁をいただきましたけれども、これらのうち、もし経過年数30年以上、これらの建物とインフラがどれくらいあるのか、もしわかればパーセントでお答え願えますか。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

30年以上計画したものは、旧中央公民館とか幾つかございます。それをパーセントにしますと41%でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

41%、私が思うに、非常に思っていたより高い数字だなというふうに思いますけれども、この数値は基山町にとってどういう状態であるとお考えか、所感をお聞かせ願えますか。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

建設が一時期に偏っていました。橋本内閣でしたが、あのころの1億円を配付したり、町民会館を建てた時期に、どこでも同じですけれども、一気に建設をしております、その維持費等もありますし、更新の費用も考えなくてははいけません。それより前に中央公民館のように建てたところもありまして、一気に更新、維持費の費用負担が重なってまいりまして、現実的なことを言いますとどうしようかというふうな状況でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

それでは、ちょっと先ほどの1回目の答弁で、建物が27、道路とあと下水道管というふうにお答えいただきましたけれども、これには排水管は含まれていないのか、これは対象外でしょうか、お聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

側溝とかの排水管は道路に含まれておりますし、建物の排水の部分については、その建物に含まれているというふうに考えています。

以上です。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

じゃ、ちょっと確認です。上水道は完全に町から切り離して考えるということですか。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

上水道については、今のところ考慮をいたしておりません。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

考慮していないというのは、東部水道企業団の対象となるということですか。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

そのように認識をいたしております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

ちょっと確認です。それは東部水道企業団も同じように認識をしてあるということでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

確認は直接いたしておりませんが、年度計画で更新の負担金を負担しておりますので、既にその辺のところは水道企業団のほうで考慮をされて実施をされているものというふうに認識をいたしております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

そこは非常に大事な部分でもあると思いますので、ぜひ確認をお願いしたいなというふうに思います。

この公共施設等総合管理計画、これに盛り込む内容についてちょっとお尋ねいたします。

こういった内容を盛り込む必要があるのかお願いします。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

まずは公共施設の現状ですね、それから人口の見込みですね、それから財政収支の見込み、それから施設全体の管理の基本方針として、全庁的な取り組みの体制をどうするかとか、今から長寿命化とか統廃合とか新設、更新ありますけれども、その基本的な方針を記すということになっております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

それは総務省の指針に基づく内容と一致した内容でしょうか。それとも基山町独自に盛り込んだ内容があるのかお尋ねいたします。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

基本的には総務省が示している指針のとおりでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

ちょっと今の答弁をお聞きしますと、公共施設の管理が主な内容になっているように思いますけれども、恐らく総務省の指針の中には、まちづくりに関する将来の方向性、こういったものも含むようになっていないかなと思っていますけれどもいかがでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

総務省がいますのは、当然人口等によりまして、その施設の需要も変わってまいりますので、それも含めて統廃合、更新等をしていけば、それがまちづくりにつながっていくという考え方だと思います。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

では、先ほど答弁いただきました人口動態・人口推計ですね。これは10年間という期間の人口動態、これをどのように判断されていくのかなと思うわけですが、ベースとなるのは社人研、社会保障・人口問題研究所のデータをもとに推計される予定ですか。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

今のところ、どういうふうなデータでいくかは決めておりませんが、総合計画との絡みもありますので、慎重にその辺は考えていきたいと思っています。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

そうだと思います。今、例えば、財政課長なり企画政策課長が把握してある人口推計、基山町における人口推計、これほどのデータをお持ちですか、どちらでも構いません。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

持っている推計値としては、社人研のを把握しております。それから、目標値としては総合計画で1万8,000人というのを立てておりますので、それを持っているという状況でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

この人口推計・人口動態も、非常にこの計画をやっていく上では大事な要素になってくると思います。ましてや、来年度中にこの策定を終了するという事になれば、この推計というのは本当に私たちも興味深いところでありますので、それはどのように、いつぐらいまでに出される予定ですか。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

今度、政府のほうでまち・ひと・しごと創生ということで、地域版の総合戦略を立てるに当たって人口ビジョンをつくるということになっておりますので、これが27年度いっぱいになっております。しかし、今財政課長が申しましたとおり、27年度いっぱいには総合管理計画をつくらなければなりませんので、できるだけ早い時期には、そのビジョンは立てたいというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

この間、全協の後に議長から報告で視察に議長会で行かれたとき、どこかの町でしたか、市でしたか、職員とその地域の大学と一緒に独自の人口推計をつくられたという話を聞いて、私もぜひやっぱりそれは早急にやるべきではないかなというふうに話を聞いて思った次第です。

それと、先ほどありました財政状況、将来の見通しですね、これも組み入れられるという答弁でしたけれども、これは基礎となるデータは何をもとに算出されるか、お聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

それにつきましては、過去のデータとか、今からの予測をして作成をしていきたいと思っています。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

過去のデータというのは、以前出された中・長期財政計画ということだと思います。それとは別に、今からまた財政計画をつくられる予定なのでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

総合的に考えますと、一時期に更新とか維持管理とか、長寿命化も無理ですので、偏ればですね。当然ある程度ざっくりした財政計画でどれだけの費用をこの時期にかけることができるかというような財政収支は最低必要だというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

よろしく申し上げます。今までの答弁は、企画政策課の課長が若干答えられましたけど、ほとんど財政課長がされました。先ほどから言われますように、これは全庁的な取り組みなんですよね、横の連携が非常に大事になってくるものだと思います。

ただ、心配するのが、今議会で上程されている機構改革、先ほどの答弁ですと来年度中にやるんだということですけども、あれだけやっぱり大幅に組織変更がされる中で、果たして通常業務に加えて横の連携が本当にとれていくのか、かなり不安な部分もあるんですけども、このあたりちょっと人事権をお持ちの町長にお尋ねします。これだけ大規模な計画を進めなければならない中で、大幅な組織改編を行って、きちんと横の連携がとられた中で計画の方針、策定は可能だというふうにお考えでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

可能、不可能ということじゃなくて、それをやるための組織機構改革だということ。定住人口増という、減少ストップというような、そういうふうな意味合いもあつての機構改革でございますので、それはぜひともその方向でやっていくということでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

では、この(2)で答弁をいただきました個別計画、これはちょっとまちづくり推進課長にお尋ねしますけれども、担当課長として総合管理計画の下にあるという認識で計画を策定されていますか。

○議長（鳥飼勝美君）

天本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（天本正弘君）

これにつきましては、国のほうでインフラ長寿命化基本計画というものがございます。その下に、国と地方がやる分がございます。それで、地方が行うものが、先ほどから出ております公共施設等総合管理計画でございます。その下にいろいろな学校、それから施設、それから道路、それから橋梁とか、そういったものの長寿命化計画を立てなさいというスキームになっております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

ちょっと確認させていただきます。インフラ長寿命化計画というのが一番上にあって、その下に総合管理計画、そしてその下に個別の計画ということでよろしいですか。

○議長（鳥飼勝美君）

天本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（天本正弘君）

そのように認識を持っております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

それでは、この計画策定の指針をつくる上で、恐らく財政措置が何らかあるのではないかなと思うんですけれども、これは計画策定に係る経費、きのう説明があったと思うんですけれど、債務負担行為の900万円ということでもいいのか、そしてまた、このうち2分の1は特別交付税措置が行われるという認識でよろしいでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

先ほど議員のほうから御心配をいただきましたように、専門的な知識もある程度必要ですし、事務量ということもありますので、今度の議会で債務負担行為ということで、27、28年

度で900万円の債務負担行為をお願いいたしております。27年度を目標で27年度策定ということをしてしまいましたが、債務負担行為としては28年度まででお願いをいたしております。特別交付税、この財政措置につきましては特別交付税で2分の1を財政措置するという事になっておりますけれども、実際、公共施設整備計画でかかった費用の全部を特別交付税で見るといえるのはまだはっきりわかりませんので、どの程度の金額が見られるかというものははっきりわかりませんし、特別交付税というのは入っているはずというぐらいにはしかわかりませんので、金額が幾らとかいう算定はわかりませんので、ここで幾らが財政措置されるかということとはちょっとできかねます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

それでは、公共施設の除却、これについても財政措置がとられると思いますけれども、確認させてください、どのような措置がありますか。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

通常起債というのは、建設的価値を上げるような事業にしか起債はできないんですけれども、もちろん普通の事業ですので、棄却、崩したりするやつには起債はつきません。今回の場合には、公共施設整備計画をつくったところは、それによって除却を決めて、除却を実行する場合については、それについて起債をしていいよという措置でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

それは特別交付税措置ではなくて、起債をしていいという認識ですか。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

起債ができるという措置でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

では、具体的事例としてお尋ねいたします。

先ほどチラッと名前が出てきましたけど、現在全く手つかずの旧中央公民館、これは以前1階部分が行政財産、2階部分が普通財産でしたが、現在の状況をお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

今現在は、両方とも1階も2階も普通財産でなっています。普通財産ですので貸し付けというふうなことで時々見える方もいらっしゃいますけれども、内部でも貸し出しをすることになりますと、若干費用をかけないと借用にたえないような状況ですので、あの建物に費用を、税をつぎ込んでいくというのがなかなか住民の方に理解が得られるかどうかというのはありますので、とりあえずは普通財産にして貸し出しは行っていないという状況です。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

ということは、当然普通財産ですので貸し出し、また売買の可能性も当然出てくるわけですが、それでもあの施設はそのまま存在し続けている。これはいつまで存在し続けているかというのは恐らく誰も答えられないと思います。ただ、現在の状況を恐らくどれぐらいの方たちが見ておられるのかなというふうに思うわけですね。特にやっぱり近隣住民の方、そして、あそこは通学路になっています。登下校の児童・生徒にとって非常に危険な状態だというふうに私は思っています。特に2階部分は、木枠の窓が今現在も存在しています。あれは相当大的な風が吹けば一発で吹っ飛んでいくような危険な状態だというふうに思っています。

その中で、今回除却の部分も、起債ではあるけれども、その財政措置ができるということであれば、これは早急に計画に入れるべきではないかなというふうに思いますけれども、それはいかがでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

議員御存じのように、あの辺は河川改修が計画をされていますので、それによって今からどうしていくかというのを検討していきたいというふうに考えています。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

河川改修の話が出ました。何年後、あそこまで行くでしょう。最低5年はかかる。早くても3年でしょう。そのままの状態ですり過ぎしていいのか。要するに、この総合管理計画というのは、つくることが目的であってはならないはずで、やっぱり住民の安全と安心を守るための計画だと思っているんですよね。そのためにも、私は早く早急に検討していただくようお願いをしておきます。

続いて、PPP、PFIについてお尋ねをいたしますけれども、ここからは非常に片仮名言葉や横文字が多用されて、傍聴されている方には非常にわかりにくいと思いますが、どうか御了承ください。

まず、公共施設等総合管理計画の総務省指針にもまちづくりの観点からPPP、PFIの活用が明記されています。これは先ほど1回目の答弁にもありました。基山町において、この計画策定にどのように盛り込んでいくのかお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

指針の中にも、検討されたいという言葉で書いておりますので、検討は確かにします。ですので、具体的にどのように盛り込むということは現在のところは考えておりません。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

具体的には考えていないということですがけれども、検討をされたいと、それは言葉のニュアンスの恐らく違いだろうと思います。ただ、もうこれを検討するかどうかというのは随分違ってくると思うんですよね。恐らく財政課長は、ファシリティマネジメント、いわゆる

F Mと言われるやつとか、アセットマネジメント及びP R Eですね、これは公共不動産の推進なんですけれども、これらと今回の公共施設管理計画というのがある意味イコールなのかどうか、これをお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

前段でおっしゃったことは、今ある施設をどのように利用していくか、どのような戦略を立てて有効に使って、どちらかといえばそういうふうな方向ですけれども、今度の総合管理計画というのは、もう1個進んで、時代の大きさといいますか、人口といいますか、財政とかにも勘案して、そのときに合った施設にしていこうというのが大きな目標ですので、その部分が若干違ってくると思います。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

財政課長はさすがによく理解していただいていると思います。今回の公共施設等総合管理計画というのは、今の建物をどうやって長寿命化するのかわけだけではなくて、これからのまちづくりの方向性も同時に示していく、指針として示していく方向性を書いていくというのも重要な計画ではないかなというふうに思っています。

先日、厚生産業常任委員会では、みやき町に赴いてP F I方式による定住促進住宅整備に関してお話を聞いてまいりました。やはりしっかりとした現状把握、地域の課題等を把握されて取り組まれているというふうを感じることもできました。

ただ、この定住促進住宅整備については、基山町ではそのまま当てはまることは難しいと実感したのも事実であります。

基本的に公営住宅と地域有料賃貸住宅、これの違いがあるからなんですけれども、つまり園部団地、割田団地、本桜団地、これはP F I方式にはそぐわないというふうに私は考えていますけれども、担当課長の見解をお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

天本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（天本正弘君）

おっしゃいました3団地は公営住宅でございますので、その公営住宅団地とPFI方式でいうみやき町がやっている住宅とは若干違うものだと思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

若干違うじゃなくて、やっぱり違うんですね。このPFI、実は最も困難なデメリットというのが、みやき町での説明もあったんですけども、実は職員、議員、住民、民間企業ですね、全てにおいて新しいシステムのためにふなれで似たような言葉の羅列で理解するための勉強が相当必要になってくるということでした。実際にPPP、これにもパブリック・プライベート・パートナーシップ、官民連携ですね。あとパブリック・パブリック・パートナーシップ、自治体連携というのがあります。それに先ほど言いましたPRE、これはパブリック・リアル・エステート、公共不動産、それから特別目的会社のSPC、そしてPFIですね。PFI方式にもBTO方式とBOT方式があって、どちらを使うかによって、その性格も大きく変わってきます。非常にやっぱりわかりづらいです。しかし、わかりづらいながらも、総務省が指針の中に入れて込んでいるわけですね、PFIの活用というふうに明記しています。この私が出したところにもPPP、PFIの活用というふうになっていますので、これからどのようにして全庁を挙げて取り組んでいかれるのかお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

PPPといいますのは、自治体としていいところは、コストダウンを図れる。言っているかどうかわかりませんが、コストダウンを図れるということと、一時的な財政支出をしなくて長期的に支出をすることで事業ができるということでございますけれども、実際としては、建設費を含めた維持管理費等のライフサイクルコストといいますか、それとPFIでやったときのコストですね、それを比較して、なおPFIのほうがいいという結果が出たときにはPFIでやると思いますが、それは比較してすることの資本の一つということに考えています。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

若干私の認識と違いますので、補足させてください。

財政課長はコストを一番最初に言われました。これは恐らくBTO方式のほうだと思います。私はやはり今からの公共施設というのは、コスト重視から価値を重視して、仕様発注から性能発注への転換というのが最も求められるべきだと思っています。ですから、そういった意味でも、私はPFIというのを今勉強したいと思っているし、ぜひ職員の皆さんも一緒に勉強していただきたいなというふうに考えています。

それで、基山町には御存じのように、早急に改善すべき施設が、例えば、町立保育園ですね。そして第4次総合計画において既に10年前から老朽化の問題を指摘されている葬祭公園、これらをどうするのか非常に問われています。私はこのPFI方式もぜひ選択肢の一つに成り得ると考えますけれども、これは町長の見解をお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

基山町は今上げられました保育園、それから葬祭公園、それからいずれ憩いの家あたりもどうするかというような、そういう考えもしていかなきゃいかんと思います。

その中で、PFIが活用できるものは、もういまやPFI、市民権を得たといいますか、それだけ政府も推進をしておるということですので、当然それは活用できる部分には活用していければというふうに思っております。

しかし、以前聞いておったのは、葬祭公園については規模的なものがあってというような、まだその辺の感覚から私は抜けきれていないというのが現状でございます。炉が幾つか、もっと大きければPFIでもできるというような、これは古い考え方もわかりませんが、そういうことも聞いておりましたので、それもやっぱりあわせて勉強していきたいなというふうに思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

確かに、憩いの家の規模だと僕はそぐわないと思っています。ただ、葬祭公園は、ある意味もう文化施設としての見方も随分出てきているのが今全国の現状であるのも事実です。で

すから、そういったことも踏まえて検討すべき材料かなというふうに思っています。

また、これだけ単体としての施設ではなくて、先ほどから申し上げていますように、まちづくりの観点でこのPPP、PFIの活用は早急な検討課題だというふうに思っています。つまり、旧庁舎跡地を含む駅前南側の商業地域、これは課題が山積していますけれども、先ほどから言いますように、私は行政の役割という主体は、やっぱり実施から監視、管理になっていく、こういう方向性を持たなければ到底もたないというふうに思っています。そのためにも、やはり官民連携は絶対に欠かせないというふうに思っていますので。

ですから、以前の一般質問でもさせていただきましたけれども、内閣府の特定地域再生制度を用いた基礎調査、これをすべきではないかというふうにお問い合わせをいただきましたけれども、いまだ何ら動く様子もありません。ただ、今回の議案の補正に30万円か何か補正予算がついていたと思いますけれども、金額云々ではないですけれども、この金額で何をどのようにするおつもりなのか、ちょっと私にはわかりかねますので、また議案のときにもお尋ねします。

とにかく、今までは何をどうやって何のためにという順番で事が進んでいったと思うんですけれども、先ほど財政課長、コストの話されましたけれども、私はどんな価値を生むためにというのが一番に来るべきだと思っています。要するに、町というのは、この町は誰のものかという認識を立てば、やはり町民のものであって、町民の方は使う権利もあればそれだけ支払う義務もあるわけです。全部税金でいくのであればですね。ですから、そういった意味でも、ここにどんな価値を生むのかというのが、まず一番にこれからの公共施設を考えていただきたい。それにどんな手段で何に取り組むのかというのが問われているというふうに思います。ぜひとも、できるだけ広い視野を持って行政運営に当たっていただきたいと強く要望して、次の項目に移ります。

2項目めの空き家対策についてです。ここもちょっと時間の関係上、(1)から(4)まであわせてお尋ねをいたします。

昨年6月議会において上程されました基山町空き家等の適正管理に関する条例の制定は、継続審査を経て平成25年第3回本会議にて賛成多数で可決成立されました。

この1回目の答弁によりますと、情報提供もなく現在管理もしていないということですが、それでいいというふうに認識されてありますか。

○議長（鳥飼勝美君）

松雪農林環境課長。

○農林環境課長（松雪靖弘君）

当然、今回の条例におきましては、空き家等の危険な状態になったときの条例と私は認識しておりますし、実際、今現在空き家等は基山町にも存在していると思います。それにつきましては、当然所有者の管理において、その自分の空き家を管理していただくということでございますので、この条例制定した時点で、通常本当に危険な空き家というのを町のほうは情報等が今のところ町長の答弁でもあっていないということでございますし、我々職員が町内を回って危険な状態の空き家を見に行くということは、現在はしておりません。

以上でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

この条例の目的というのは、私改めて読み返したんですけれども、町民の安全・安心に寄与するということなんですよ。であるならば、その情報提供をそれだけ町の状態でいいのか、私は甚だ疑問に感じるところであります。だからといって、積極的に情報を促すのかどうか、これをちょっとお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

松雪農林環境課長。

○農林環境課長（松雪靖弘君）

実際、危険な状態というのは今のところないということを私認識しておりますし、先ほど言いますように、空き家を今後定住促進の関係で、そこを貸すとか、いろいろな情報があると思いますけど、今のところにつきましては、こちらのほうから情報を発信するということはないかと思えます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

ちょっと言葉がわかりにくいので、ここの場ではいわゆる危険放置空き家に関しては特定空き家という名称でさせていただきます。そして中古住宅、いわゆるリフォームが可能な住宅に関しては通常の空き家でさせていただきます。そうでないと、恐らく聞かれている方はもうごちゃごちゃになってわからないと思いますので。

当時、外観目視で危険放置空き家に該当するのが13件あると。改修不能が1件で要撤去がゼロ件ということでしたけれども、これは以後変更等はございませんか。

○議長（鳥飼勝美君）

松雪農林環境課長。

○農林環境課長（松雪靖弘君）

実は、条例を6月にしまして、それから厚生産業常任委員の皆さんと現地に13件見たかと思えます。あれから1年半ぐらいしかたっておりませんので、その間急に悪くなるということとは考えておりません。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

恐らくその辺のずれもあるのかなと思います。私は1年半たったから今改めて質問をさせていただいています。要するに、あの条例は私は反対討論させていただいたんですけれども、早急に整備が必要だということで制定されたわけです。私は反対討論の中で、今から国が法整備をしていくので、それが終わってからも遅くないでしょうというふうに反対をさせていただきました。でも、当時は、いや、早急に整備が必要なんですと、とりあえず持つておかないといけないんですというふうなことだったんですよ。それが1年半たってもそんなに変わらないと思いますということであれば、なぜあのときに条例制定を急いだのかというのが私にはもう全くわかりません。

それはちょっと置いておいて、以前区長さんたちをお願いして空き家の状況調査か何かをされたというふうにお聞きしていますけれども、それがこの外観目視の13件ということによるしいんですか。

○議長（鳥飼勝美君）

松雪農林環境課長。

○農林環境課長（松雪靖弘君）

まず最初の議員の質問にありましたように、今必要だから上程をしたというのは私は言っていないと思います。あくまでも今はまだ13件のそんな壊れていませんけど、もしそれが通学路で危険な状態ならば、そこから例えば、議会上程をすれば、そこでまた半年以上かかりますということの上程させていただいたわけです。

だから、議員おっしゃいますように、1年半、今結果で言っていらっしゃると思います。しかし、あの時点では、当然条例をつくらないと、危険な状態で今ありませんけど、もしそれが急に起きた場合については、それからかなりの年月がかかるから今必要ですよということで私答弁したというふうに考えております。

それと――2番目何やったかな。（「区長さん」と呼ぶ者あり）あれは区長さんのほうから各地区のほうに調べていただいて、来たのが13件でございます。

以上でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

ちょっとその議論は後でまたさせていただきます。

実際に、もういろんな事例が生まれています。これは特定空き家、そして通常の空き家かわらざすけれども、そして現に私のところには隣の家が数カ月前に空き家になって、これは特定空き家というわけではないんですけど、空き家になって、実はその家族も首都圏にいるために、財産そのものをもう放棄したいと。ただ、放棄するほうは放棄するでいいのかもしれないですけども、ただ、残された家はとにかく鬱蒼となっていくわけですよ。もう庭木とか雑草が、要するに近隣住民の方で管理していかなければならないというふうな相談がありました。今後、こういった事例もふえてくるというふうに思いますけれども、これはどのように対処されていくのかお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

松雪農林環境課長。

○農林環境課長（松雪靖弘君）

実は、管理しきらなくて財産放棄という今言葉がありましたけど、そういう事例のほうも基山町には来ております。しかしながら、その家、または土地が町のほうに寄附とかあって売却できるかどうか、また管理が基山町で大変だということであれば当然できないということでもありますので、そういう事例等は今来ているのは来ております。（「うん、それで」と呼ぶ者あり）今のそういうところにつきましては、町のほうについてはとっていないのが実情でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

ですから、そういう事例がふえてくると思うんですよね。だから、私はそういう事例をこれからどう対処していきますか。いや、それはもう財産権の問題なので、基山町はもう全く関知しませんという答弁なのではないでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

松雪農林環境課長。

○農林環境課長（松雪靖弘君）

当然町のほうに寄附行為出てきますと、町のほうが管理しなければなりませんので、その間につきましては、町のほうも今の現段階ではとっていないのが実情でございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

町長も同じ考えですか。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

いわゆる権利放棄の空き家というようなこと、これはいろいろこれから出てくると思います。現に御存じのところもあろうし、特に山間部あたりではそういうのも相続権の問題とかいろいろございまして、そういう家がこれから出てくるとは思います。

そういうときにはやっぱり、そのお引き受けするのはいいにしても、やっぱり後の管理も町もやらなきゃいかんものですから、その辺のところはしっかりとやっぱりお互い話を詰めて、あと本当に町でどうするのか、どう活用できるのかというところまで考えて話し合っていかなきゃいかんというふうに思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

恐らくどんどんふえてくると思います。私たちの想像している以上に、そのスピードは早いような気がしています。

ただ、ちょっとこれは上程議案に係ることなのであれなんですけど、この空き家対策について、今議会で上程されています機構改革、この担当所管ですね、これが定住促進係になるのか生活環境係になるのか、防災安全係になるのか、どこが所管になるんですかね。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

空き家の危険対策については、防災になるかと思います。ただ、今議員がおっしゃられたように、実際相続関係で放棄されて、それを町で引き受けて、例えば、それを人口増対策で貸し出しをするようなことで使うということであれば、まちづくり課になってくるのかなというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

ということは、またこの空き家に関しても特定空き家と通常の空き家と2つ分かれながら対処していくということでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

人口増対策の面からいえば、今議員が言われている空き家については、さっき言った相続関係も含めてどうしていくのかということで、そういう部分についてはまちづくり課になるということで2つに分かれるということになるかと思います。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

はい、わかりました。ちょっと議案に関することなので、これぐらいでとめておきますけれども、先ほど私もちょっと言いましたけれども、先月の11月19日に国のほうがようやく空き家等対策の推進に関する特別措置法という法案が成立いたしました。この法案成立で何がどう変わるのかお聞かせ願えますか。

○議長（鳥飼勝美君）

松雪農林環境課長。

○農林環境課長（松雪靖弘君）

今回、今議員おっしゃいますように、11月19日に参議院で可決いたしましたして、来年6月ごろには施行ができるかなというふうに考えております。

今回、法が成立されましたけど、実際、今の基山町の条例を今回この法令が制定されてどう扱うかということは県のほうにも問い合わせしましたが、条例の改正等はないということをお聞きしますけど、何らかの支障が出れば当然今後条例改正が出てくるかなというふうに考えてはおります。

それと、新しく法でできたといいますのは、やはり固定資産税の情報を利用できるということが非常に大きなメリットじゃないかというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

今課長が言われましたように、この特措法の第15条第2項、税制上の措置等もうたわれております。これについて、税務住民課長、現在何か知り得る情報とか、今後どのように変わっていくのかというのがもしあれば教えてください。

○議長（鳥飼勝美君）

鶴田税務住民課長。

○税務住民課長（鶴田勝美君）

空き家イコール建物として、家屋として、私たち課税をしておりますので、その分の情報として、その方、要するに持ち主ですね。実際そこに住んでいらっやらないのが空き家です。その方の住所とか名前とか所在地、そういうものはこの法律によって情報として提供できるというふうには考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

よろしく申し上げます。恐らくこれで随分と変わってくるのかなとは思いますが、また、私はいっそのこと期限切ってもいいと思うんですよね、3年間固定資産税を減免しますというふうに、期限切ってもやはり早急に回していく必要がなるのかなと思っています。

ただ、私ちょっと1回目の答弁で言い忘れていましたけれども、非常に驚いたのが、これは特定空き家じゃなくて、今後予想される空き家の状況で、町長がこれまでコンパクトなまちづくりを行っておりますので、市街化区域内ではそれほど空き家がふえると考えておりませんという答弁をされました。町長、本当にこんなに思っているのでしょうか、ちょっと確認させてください。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

まあ20年、30年先はそれこそどういう状況になるのか、その辺はまたちょっと予測つかない部分もございますけれども、現状としましては、先ほど言いましたように、割とコンパクトに2つの駅周辺に固まっておりますので、そういうところは比較的空き家になっても、次の入居者なりがやっぱりある程度リンクしていているというような、そういう情報は聞いております。逆にやっぱり山間部、先ほど言いましたように山間部あたりはなかなかそれがスムーズにいていない現状もあるということです。それはやっぱり1つの傾向だと思えますし、近いところではやっぱりそういうことかなということで、先ほどのお答えになったということでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

私は決して20年後、30年後を言っているつもりはなくて、現状、町長の御自宅周辺を見ただけでも幾つありますか、空き家。ましてや75歳以上の方がお一人で暮らしているおうちが何件ありますか。最もやはり昔から栄えた地域ですよ、あの地域は。にもかかわらず、私毎回議会が終わった後、2,000件一件一件自転車で回ります。もうここもいつの間にか空き家になっている。あっ、ここも空き家になっている。もう本当に私たちの想像をはるかに超えるスピードで空き家になっている件数が非常に多いです。それをやっぱりまず認識していただかないと、これはいつまでたっても並行線のままだというふうに思っていますので、よろしくをお願いします。

それと、この特別措置法とは別に、地方創生関連予算で、これはもう特定からちょっと変わりますけれども、中古住宅、リフォーム市場活性化、そして空き家の活用の予算が恐らく

ついてくるというふうに言われています。これによって何がどう変わっていくのか、もし御存じのことがありましたら教えてください。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

ちょっと申しわけございませんが、そこを把握しておりませんので、申しわけございません。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

私は今回の地方創生関連予算では、やはり注目しているのが、空き家を活用した子育て世帯向け地域優良賃貸住宅の整備だと思っています。これはぜひ国のほうに提案を行うべきではないかなというふうに思っていますけれども、賃貸住宅としての整備に要する費用助成、家賃減額に対する助成など、その地域優良住宅として今存在する空き家をもう一度再生させるということですが、これについていかがでしょうか、町の方針として、もしこういうものが出た場合には町として提案されるかどうかお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

木村企画政策課長。

○企画政策課長（木村 司君）

その地域優良住宅の施策についてちょっと認識しておりませんが、先ほど神前議員のところだったかな、申しあげましたとおり、まち・ひと・しごと創生ということで総合戦略を立てることになっておりますので、その中で、この政策が有効ということになれば、当然そういうことも考えていかなきゃいけないというふうに考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

以前一般質問において、移住・住みかえ支援機構の活用も提案させていただきましたが、やはりなかなか動く気配が見られません。恐らくこれよりももっといい政策があるんでしょう。ですから、私の提案よりもっといいものを多分検討してあるんだと思いますけれども、

正直言って、私はやはり危機感がなさ過ぎるというふうに思っています。これだけやっばり質問に対しての答弁にギャップがあると、そのようにしかもう捉えられないところがあります。

それで、4月から、ちょっと議案まだ通っていませんけれども、機構改革で何がどう変わっていくのかというのはわかりませんが、最後に町長にちょっとお尋ねします。お尋ねというよりも、これから先ほど言いましたひとり暮らしの高齢者世帯、それからゆとりある子育て世帯への取り組み、そして中古住宅の活用、これらにどのように立ち向かっていけるのか、その意気込みだけお聞かせください。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

もうとにかく少子・高齢化、人口減少、これはもう目の前に迫っておりますし、必ずや来ると、もっと大きな波で来るというふうに考えておりますので、今言われております空き家にしてもそうですし、子育てにしてもそうですし、その辺のところはしっかりとやっばり町として捉えて対応していかなくやいかんというふうに思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

久保山議員。

○2番（久保山義明君）

ぜひとももう待たなしの状態、そして少なくとももう一度人口推計を取り直して、独自にでも取り直して、消滅可能性都市というこの何ともいえないむなしいレッテルをいち早く外していただきたいとお願いしながら、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（鳥飼勝美君）

以上で久保山義明議員の一般質問を終わります。

ここで2時30分まで休憩します。

～午後2時20分 休憩～

～午後2時30分 再開～

○議長（鳥飼勝美君）

休憩中の会議を再開し、次に大山勝代議員の一般質問を行います。大山勝代議員。

○8番（大山勝代君）（登壇）

皆さんこんにちは。8番議員の大山勝代です。どうぞよろしく申し上げます。傍聴の方、お疲れさまです。

今回の私の一般質問は2項目で、役場の機構改革に関連したものと教育学習課に質問をいたします。

1項目めの1つです。全協で執行部から機構改革の案が出されました。8日にはその審議がされますので、詳しくということではなくて、気になるところを先にお聞きしたいと思います。

今回の改革の概括を示してください。この機構改革案を見ますと、課長と係長の間室長として3課に置かれています。その位置づけはどうなっていますか。

皆さん御承知のように、再来年4月に新図書館が開館します。現在の図書館は係長と職員2人の計3人体制で業務をこなしていらっしゃいますが、このままの体制では開館にこぎつけるまでの仕事がたくさんあって大変だなと考えます。館長としての準備室長的な配置は考えていらっしゃいませんか。専任の館長を置く考えはありませんか。

4つ目です。情報公開条例についてです。

町民がある情報を得たいと考えたとき、一般的な手続について説明してください。私はこの制度を使って、教育学習課に平成25、26年の2年間の基山町立小・中学校の安全衛生委員会の議事録、またはそれにかわるものと平成25年10月と26年4月から9月までの定例教育委員会の議事録の2つを請求しました。しかし、いただいた内容はこちらが考えていたものとは大きく違っていました。こちらが少しでも満足するものが得られるには、その後、どういう手だてをとったらいいと思われませんか。

1項目めの最後です。町民がある用件で役場に来て、窓口で担当者が不在でわからないと言われたとき、せっかく来たのに再度来庁しなければならないということでしょうか。

大きな2つ目です。

全国的に喫緊の問題となっている教職員の多忙化解消についてです。

私は9月議会でもこのことについて質問をしましたが、具体的な対策をとらないと解決ということにはなりません。1つずつ改善に向けて努力していくことだと思います。そのうちの1つは、先生方が書かれている業務記録表を実態に合わせた書き方によることだと思います。基山町では以前からの書き方、記入の仕方として、改善のための変更、書き加えられているという項目がありますでしょうか、お尋ねします。

これで1回目の質問を終わります。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）（登壇）

大山勝代議員の御質問にお答えを申し上げます。

まず、1項目めでございますけれども、機構改革と情報公開等についてということで、
(1)今回の機構改革の概要を示せということです。

基山町では、効率的な行政運営や職員数の縮減に対応した組織とするため、平成20年度に大きな機構改革を行いました。その後、人口減少問題に直面していることや、国の政策変更や地方分権に伴う権限移譲により事務量が増大していることから平成27年度に組織機構を見直します。

平成27年度から実施します機構改革につきましては、まず、まちづくり課及び定住促進室を新設して、まちづくりに関するさまざまなコンセプトの実現のためのソフト事業を集約し、定住人口促進の施策を行い、人口増対策の推進を図っていきます。

次に、産業振興課を新設し、六次産業化を含めたトータルな産業振興を図っていきます。

総務企画課につきましては、総合計画、情報・広報、統計部門を統合し、迅速な意思決定をしていきます。また、町民の安全を一括的に推進するため防犯事業を移管し、防災と防犯を統合し、防災、安全の強化を図っていきます。

その他、税務課につきましては、税務部門を独立させ、税務部門における町民からの信頼性及び職員の専門性を向上させます。

住民生活課につきましては、農林環境課の環境部門、健康福祉課の保険年金部門を統合し、各種申請、届け出等窓口の集約化を行います。

こども課につきましては、青少年健全育成部門を統合し、家庭教育の充実を含めた総合的な子育て支援の推進を図っていきます。

(2)新設される室長の位置づけはどうなっているかということでございます。

今回の機構改革では、町の重要施策の推進を行うため、総務企画課に広報・情報管理室、まちづくり課に定住促進室、産業振興課に六次産業推進室を課と係の中間的なセクションとして3つの室を設置します。

この室の室長につきましては、課と係の中間的なセクションとなりますので、主幹の位置

づけを考えております。

(3) 図書館が新築される機会に図書館長を置くことはできないかというお尋ねです。

基山町立図書館設置条例第3条により図書館に館長を置くとなっており、教育学習課長が兼務をいたしております。現在のところ、新設の図書館につきましては、専任の図書館長を配置するには、そこまではいたしておりません。

(4) 情報公開の手続について示せということです。

情報公開の手続といたしましては、基山町情報公開条例第6条の規定に基づき、基山町公文書公開請求書を提出していただきます。公開請求書が提出後は、関係課にて文書を特定し、公開、一部公開、非公開の検討を行い、請求者に対し決定の通知を行い、公文書を公開することになります。

(5) 請求者が不備と考えるとき、どんな手だてがあるかというお尋ねです。

公開文書においては、一部公開や非公開などの公開決定等について、請求者に不服があると思われた場合は、基山町情報公開審査会に諮問することができます。

なお、情報公開条例に基づき請求され、公開される公文書につきましては、職務上作成し、または取得した文書等になりますので、現存する公文書の公開となります。

(6) 来庁者の要件で担当者が不在のとき、どのような対応がされているかということです。

職員の業務につきましては、不在の場合、どちらか対応できるように主、従の担当を決めて業務を行っております。専門的な事案で担当者しかわからない場合や担当者が出張等により不在にし、回答できない場合は、後日、回答させていただいております。

2項目、教職員の多忙化解消については、教育長のほうから。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）（登壇）

2項目めの質問にお答えをしております。

教職員の多忙化解消について、(1)業務記録表の書き方の改善はどうなっているかというお尋ねですが、現在の業務記録の記入方法は、県が示した記入方法に準拠していますので、特に変更はしておりません。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

ありがとうございました。では、2回目に移ります。

先ほども言いましたように、機構改革については8日の日に十分時間をとって審議があると思います。私はこの場では、図書館運営について質問をします。

まず回答で、現在、課長が館長を兼務していると言われましたが、ここには書かれていませんよね。26年の兼務という形の表記はありませんけれども。そして、私自身、課長が館長を兼務ということを知ることがとても薄かったのですが、どういうことでしょう。

○議長（鳥飼勝美君）

原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

組織機構の中の課長とか係長とか室長とかいう分をそこには記載されてありまして、館長という条例上の肩書につきましては、教育委員会の辞令で館長を命ずるといいますか、町民会館館長と一緒にです。町民会館館長を命ずるということでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

今の説明ですけれども、でも、やっぱり館長というのは顔ですから、ぜひ表記していただきたいというふうに思います。そして、先ほどの回答で、専任の館長は配置しないということですが、その配置しないということに対して教育学習課では28年4月にオープンするわけですが、このままの3人体制でできる、オープンにこぎつけるといえますか、そこをできるという論議がされたのでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

現在、検討委員会等でずっと検討しておる事項は建設にかかわる分の検討をしております、当然今後、管理運営事項についても内部なり検討委員会とかワークショップで出た意見等も含めて検討はしていかないといけないと思いますけれども、現在、私が図書館長を兼務いたしております、現時点での支障等は具体的には起きておりませんので、今後どういった問題が発生するのか、そういうところを見越して検討はしていきたいと思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

きちんと今後するというので、3人体制のままというので、ここでも出されたときには何も検討ない、現状のままということが横滑りしたということですか。

○議長（鳥飼勝美君）

原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

現在、図書館ですね、新しい図書館は箱物を建てかえるということでございまして、組織的な機構改革を今回図書館にするということはない、来年の4月1日現在の機構改革ではしていないということでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

そのことについてはちょっとおいておいて、そしたら、多分準備委員会というのがありますよね。それでも検討されていませんか。

○議長（鳥飼勝美君）

原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

準備委員会でございます。その中では、まだ管理運営事項については具体的には進んでおりません。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

9月の定例会で牧菌議員と久保山議員の質問で、新図書館の運営方針について、先ほど言われた同じような形で、これからの検討課題だと回答されています。もうその9月から3カ月たちましたが、検討に入られていますか。

○議長（鳥飼勝美君）

原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

この前の臨時議会でやっと建築の施工業者を御承認いただいて、今現在、新しい建物についての着工に入ったばかりでございますけれども、期間が平成28年4月開館というようなことでございますので、この間に検討して結論を出していきたいというふうに考えます。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

悠長に構えたらいかんのじゃないかなと思います。並行してしていくべきじゃないですか、ハードの部分とソフトの部分。ということをちょっと思っています。それで、そのときの管理運営についての検討するときに、どなたがその中心になって進められていきますか。

○議長（鳥飼勝美君）

原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

現在、基山町立図書館の運営については、特段、専任の課長がいなくても支障なくいっております。これが図書館が新しくなったからどういった支障が出るかというのはちょっと予想はできませんけれども、特段、早急に専任の館長を置かなければ図書館が回らないとか、そういうことは考えられておりません。準備委員会では町長が会長となっておりますので、もしそういうことを検討するということになれば、町長が主導して検討していくということでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

何か反論ばかりするようでちょっと心苦しいのですが、これまでのことを言っているんじゃないんですよ。特段これまでは支障なかった、それは当たり前ですよ。これから先のことを言っていますけれども、まず初めに、やっぱり私は機構改革でほかの3つの課に室長が3人できることになりますから、図書館の中心になる準備室長が必要だと思いますが、担当課にも聞きたいですし、町長にも聞きたいですが、どうですか。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

ちょっと(2)と(3)と同じになったような形になっていますね。それで、室長とするのかどうかは、これはまた別にしまして、やはり(3)で答えておりますように、図書館長を置くというような条例になっておりますから、当然置くと。それを課長が併任するか、別に現場に館長を置くのか、その問題だというふうに私は思っております。それで、今のところは、さっき申し上げましたように、別に今すぐ館長を別立てで置くということじゃなくて、まだこれから建設もあるものですから、やっぱり課長が館長で、現場の3人も当然忙しくはなるとは思いますけれども、連絡とりながらやっていくというのがむしろベターじゃないかなというような、私はそんな感じがしております。

それと、準備委員会、これはもう大体建設に関してはある程度のところで終わったんじゃないかということで、今度は図書館運営委員会ですか、名称は別にしましても、いわゆる保育所運営委員会、保育所もそういうふうな、保育所を考えるというような委員会がございますから、これはまた図書館運営委員会を別に、これから先ずっと図書館を運営していく上で必要だということで、これはぜひつくりたいなということで、今、教育学習課ともちょっと打ち合わせはしております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

運営委員会には町長は入られませんよね。そしたら、今のさっきの準備委員会の中心は町長だと言われて、つながりがはっきり見えないのですけれども、私は給食センターができるとき、兼務ではなくて、センター長がきちんといるべきだということを思っていました。係長が今センター長を兼務されていますが、支障なく仕事をされているとは思いますが、大変だろうと想像します。それと同時に、それよりも以上に新しい図書館ができるということと比較したときに、今の図書館の2.5倍の広さになりますよね。そして、蔵書も大幅にふえますよね。それが再来年4月のオープンに課長の今の兼務でこぎつけられるとお思いですか。

○議長（鳥飼勝美君）

原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

今回の機構改革によりまして、生涯学習とか文化、スポーツ部門が町長部局のほうに移ります。今回、教育学習課長は4月からは学校教育と文化財、それから図書館係を統括するというので、その分の負担は減るようになっておりますので、乗り切れるというふうを考えております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

流れとして、準備室長がいて、そして、オープン的时候は専任の館長ということが一番財政的なものを全く考えないときのベストの道だろうと私は思いますけれども、ほかの室長と同じように中間的なセクションとして、例えば、今の係長が準備室長になるとか、4月以降には館長になるとかということを少しでも考えられていませんか。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

それこそ実際運営していく上には、館長は必要だと条例にうたっていますから、館長は必要だということだと思います。それを本当にそこで現場の課長を新設するのか、あるいは私の今の考えでは、この役場の課長の兼任ということじゃなくて、やっぱりそこはその図書館の責任者といいますか、一応決裁権も持つようなことがいいんじゃないかなというふうには思っておりますので、さあ、そこで本当に役場からの課長がそれに当たるのか、それはちょっといかがかなと。それよりもむしろ現場でどなたかと。それで、その位置づけをどうするか、参事とか、そういうふうな形で、やっぱりある程度決裁権も持ったような、そういう位置づけができればなど、それがいいかなと、その辺のところはまだはっきりはしていないということでこういう書き方をしております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

今の町長のお話では、少し積極的な、私の希望に近い答えが出てきたかなと思っております。期待しています。

ところで、町長、教育長、課長、伊万里の市民図書館、視察に行かれたか。

○議長（鳥飼勝美君）

小森町長。

○町長（小森純一君）

申しわけございませんけれども、伊万里には行っておりません。小城とかほかのところには行ったりもいたしましたけれども、伊万里は行っておりません。非常にいい評価があるということは聞いております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

今言われたように、三日月町とか先進的なよいと評価されている図書館は全国的にたくさんあります。その中で、佐賀県の場合、今、三日月町と言われましたけれども、ぜひ伊万里に行っていただきたいと思います。なぜかという、私、先日、行きました。館長に直々に館内を案内してもらって、1時間レクチャーを受けました。そして、その以前に武雄にも行っていたのですが、2つの図書館の違いがエントランスを見たときに一目瞭然という私の感想です。ちなみに伊万里は市立図書館ではなくて市民図書館なんですよね。それだけでもコンセプトがわかると思いますが、例えば、無償のいろんなボランティアの、図書館にかかわるボランティアの幾つかのグループがあって、それを合わせたら400人登録されているのだそうです。それは行政の補助は何もないと。自分たちで資金が必要なら自分たちでつくって、そして、図書館を支えていると、そのところをぜひ館長のお話を聞いていただきたいなと思います。

（現物を示す）ここに「つながる図書館」として新書を持っていますけれども、全国的な文化の拠点として幾つも紹介されています。武雄も伊万里も並列でこれが書かれています。私は基山町が充実した図書館になるため、これは育てていかなければなりませんよね。ただハードができただけでは何もまだ魂が入っていませんから。そのときの参考になると思います。

それで、基山の場合、やっぱり中心になる人がいて、町民が一緒になって、町長がいつも言われる協働ということで基山の図書館を育てていく、その中心になるのはやっぱり専任の館長だと思います。私はその気持ちがとても強いので、再度人的配置をお願いして、次に移ります。

情報公開についてです。

(資料を示す)ここに基山3校の衛生委員会の議事録(議事の概要)というものをいただいています。初めにお伺いしますが、そもそもこの委員会は何のために月1回開かれて、どう役立てようとしているのか、お聞かせください。

○議長(鳥飼勝美君)

大串教育長。

○教育長(大串和人君)

労働安全衛生法においてそういうことを、衛生委員会をつくってやるようにということで、教職員の労働時間の縮減、それから、超過労働によって生じる安全衛生面の安全面の保証と
いいますか、そういうことを考えるために委員会を持っております。

○議長(鳥飼勝美君)

大山議員。

○8番(大山勝代君)

今の委員会の目的に沿うならば、私はこれが本当の中身がきちんと記録されているものではないのかなと思います。ここに議題と協議結果というのが書かれています。そこで、例えば、5月ですけれども、議題はセクハラ防止対策相談体制について、6月は多忙化対策についてです。これは基山小のものですが。その横に協議結果などとして、どう協議をして、どう結果が出されたのかというのは空欄です、書かれていません。これが情報公開に値すると思われませんか、総務課長。

○議長(鳥飼勝美君)

酒井総務課長。

○総務課長(酒井英良君)

私もその具体的な文書の内容を見てはおりませんけれども、先ほど町長が申しましたように、情報公開請求というのは今現存する文書を請求の受け付けをして公文書を開示するというものでございますので、それが情報公開条例上はそういうふうな手続にはなりますけれども、その内容がそうであるかということに対しては、その文書の作成上の問題であるというふうに考えております。

○議長(鳥飼勝美君)

大山議員。

○ 8 番（大山勝代君）

文書の作成上ですよ。ですから、その文書を作成しなければいけないのではないですか。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

基山町の衛生管理規程の中には、議事録をつくりなさいとか、議事録を提出しなさいとかいうのはありません。ですから、通常の委員会として、学校にはたくさん委員会がありますね、いろんな委員会。それぞれの委員会で全部議事録をとって保管しているかという、職員会議の記録さえとっていないところもたくさんありますね、もうタイトルだけで。ですから、そういうことで、教頭とかが保存していた日誌の中から起こしたものであると思います。ですから、議事録があるかないかという、きちんとした議事録は存在していないというふうに思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○ 8 番（大山勝代君）

委員会もたくさんあって、それぞれで大事なといいますか、そういう軽重のバランスはあると思いますが、一番初めに私が言いましたように、今、全国的に喫緊の問題なんですよ、教職員の多忙化対策については。特に中学校については。ですから、そのことを本気で解消するための一つ一つを改善していくという気持ちが強くあれば、話し合われたその問題点の把握や解決のための対策が参加者皆さん、全員の共通理解としてまとめられるべきだと私は思います。そのために文書化が必要ではないですかと言っていますが。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

そのことについては、そこで衛生委員会というのは学校の代表ですからね、代表で話し合ったものを職員会議であるとか、そういうときに職員にお伝えしていると、そういう大体学校のお知らせの仕方というのはそういう感じが、例えば、生徒指導委員会とか開いても、そこで決まったことをきちんとおろすときにはそういう伝え方をしているということですから、学校の文化といえは文化かもわかりませんが、そういう感じで行っているというところ

ろを御理解願いたいと思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

わかるつもりです。例えば、A中学校とB中学校とを同じような形で委員会をする。そのときに、片方では、長時間労働が続いて、精神的にも身体的にも支障を来す方がやっぱりふえると思うんですね。片方では、これを職員全体にきちんと伝達しながら、このところは皆さんで退勤時間を守りましょうとかいうのをこの学校で推進していくということになれば、この学校が勤めやすい、そして、ここで頑張れる、この学校はちょっときついなという、そういう比較にもなります、私の経験からすると。ですから、ぜひ改善、そして、私などが現場におったものとして公開して、どういう改善が出てくるのだろうか知りたいなと思うものが少しでも満足できるものが提示されればと思います。よろしくをお願いします。

若基小を見ますと、委員会参加者がずらっと全職員になっています。これは多分職員会議が終わった後されたのではないかなと思います、委員会のメンバーは若基小も把握されていますよね。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

基山町の安全委員会の組織として、これは基山町立小中学校職員安全衛生管理規程というのがあるんですが、昭和20年8月1日に制定されていますが、これには10名以内とし、次のものを持ってやっていると。校長、安全衛生推進者、安全衛生管理者、衛生に関して経験を有するもののうちから校長が指名した者と、この中で10名以内でやっておりますので、五、六名でやっているのではないかなと思います。これを開けなかったときには、これにかわるものとして、さっきおっしゃったように、職員会議の後に皆さんの意見を聞いて、意見を伺うということがあるのではないかというふうに思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

取り立ててじゃないですけども、4月と次の年の3月には衛生委員会としてありますけ

れども、その間は全職員でしたということになっていますので、もう少し安全委員会を重視していただきたいと私のお願いです。ここに会議録要旨としてインターネットで引き出したものがあります。そのときの25年10月、教育長報告の中の(4)として、小中学校運動会（土曜日開催）についてという報告がなされているはずですが、それを情報公開で定例委員会の会議録として取りました。そこには今の土曜開催についてがどう論議をされてどうなったかが書かれていません。多分推測するには、3枚目の一番下に報告及び協議事項(2)として、当面の行事予定について、別紙資料によるという……

○議長（鳥飼勝美君）

ちょっと大山議員、その質問はこの質問項目からちょっと……

○8番（大山勝代君）続

いえ、情報公開で。

○議長（鳥飼勝美君）

いや、その内容がですね、教育長がそこまでの準備をしてあるかどうか。今自分でお調べになって質問されていますから、その辺の通告とちょっとですね。

○8番（大山勝代君）続

いや、情報公開で係の方にもらったときに、これ私がもらいたいものと違うという、そういうやりとりをしたので、多分報告がいつとるかなと思ひまして、済みません。そういうことで、土曜日開催になった、私はそれ、とても前回からこだわっていますけれども、町民の方が日曜日にしてほしいという声を幾つも聞いたということで、どうして教育委員会の中で土曜日になったのかなというのを知りたかったんですよね。ですから、それも情報公開としては、別紙資料によるとあるのが、もうそれで情報公開としては済むのでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

教育委員会規則によりまして、教育委員会の会議録の作成は義務づけられておりますので、その中で議事として議論された分は要点の分として出しておりますので、それはちょっと中身はわかりませんが、議事であればちゃんと結果が承認されたのか、承認されなかったのかというのは出していると思います。

○議長（鳥飼勝美君）

それは教育委員会で。今のは教育委員会の会議。

○教育学習課長（原 博文君）続

会議録。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員は教育委員会の会議じゃなくて。

○8番（大山勝代君）続

それです。それを持っています。

○教育学習課長（原 博文君）続

議事ですか。第何号議案でしょう。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

議案審議としてきっちりと第24号議案、25議案何とかというのがあるんですね。それは書かれていますよ。その後、教育長報告として別紙資料によるという、別紙資料を私はつけていただけるのかと思っていたからです。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長、ちょっとはつきり。

○教育長（大串和人君）

別紙資料というのは違う資料だったと思います。それは運動会のための資料ではなかったと思います。これは学校の行事については、いわゆる教育委員会で承認してもらおうというよりも、このことについて御意見を伺うということで、異議がたくさんあればもう一回学校とともに考え直すということでしたが、教育委員会の中でもいいのではなかろうかという御意見があったということだったとっております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

さきの9月議会で品川議員がこのことの質問をされていますよね。そして、その回答では、要点のみ簡潔に議決の結果を掲載しているとあります。私たちが知りたいのは、何回も言いますけれども、その事案がどういう経過でそうなったのか、経過と、それから議論の内容を

知りたいのですが、それは知ったらいかんのですか。

○議長（鳥飼勝美君）

情報公開の作成と会議規則の公開とか、その辺含めて。原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

教育委員会規則で会議録は記録しなければならない事項を書いております。開催日、開催の出席者、出席委員とか、そういう中で議事の要点とか、そういうのはありますので、品川議員の質問を受けた後にこういった議論がなされて、定例教育委員会でどんなでしょうか、規則で定めてある部分をもっと変更する必要があるんでしょうかというようなお尋ねはしております。今後検討していきましようということで、現在のところはこの規則に沿った形での議事録をつくっております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

今後検討していくということですので、いずれにしても、論議の経過がわかるように改善してほしいと思いますが、それはいいでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

原教育学習課長。

○教育学習課長（原 博文君）

教育委員会の委員さんにそういう意見があったということでお伝えをいたします。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

次に行きます。次も前回、品川議員がされています。役場に用事があって来て、担当者がいないので、窓口で後日と言われることが私もありましたし、ほかの町の人からも聞いています。来庁者の都合ですぐにまた来ることができないということありますよね。どうしたらいいでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

その場合は事情をおっしゃっていただいて、連絡先、電話番号とか教えていただければ、担当者が戻ってきて回答することになるかと思います。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

そこまで言い切らんのですよね。私も窓口に言って、私でも躊躇して緊張します。ましてや町民の方が「いません、後日お願いします」という形で言われたときに、本当に敷居が高いと思っていちゃいます。ですから、遠方の方とか、職場を抜け出して時間をつくってわざわざ来たというそれぞれの事情がありますよね。ですから、役場の都合ではなくて、町民の側に立った対応をお願いしたいのですが、連絡先とか電話番号でというのをそちらのほうから言っていただけませんか。

○議長（鳥飼勝美君）

酒井総務課長。

○総務課長（酒井英良君）

職員のほうでそういうことで、総務課長名でそういう言い出しにくいという面もありますので、そういうことで回答できない、主、従関係でなるべく回答するようにはしておりますけれども、どうしても専門的な事情で回答できない場合はそういうことで文書で連絡したいというふうに考えます。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

よろしくをお願いします。

最後です。教育委員会の業務記録表について。9月議会で業務記録表のサンプルでもいいですから下さいと言っていただきました。私は今、現役のとき、これはありませんでしたが、そもそも何のためにこれを書くようになったのですか。わかり切ったことですが。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

いわゆる時間外労働がどれだけあったかということ把握するためにこの記録表を書くよ

うになったと思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

そこで、改善のためにということの提案ですけれども、ここに基山3校のものと、いや、これは課長からいただいたものと、それと鳥栖の田代中学校、名前は特定できない、それをいただいています。基山のものがとても簡単です。先ほど県が示した記入方法に準拠しているとおっしゃいましたけれども、それは出勤時間、退勤時間、時間外勤務と備考、この4項目だけです。これだけで正確な勤務実態が時間として把握できると思われませんか。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

基本的に県が示しているものというのはそれだけなんです。後ですね、ですから、最初できたときはどこの学校も大体県とほとんど準じて、同じような枠でいっていたんですが、自分の学校流にアレンジしていったのではないかというふうに、推測ですが、そういうふうに思います。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

鳥栖市でもこういう形で多忙化解消について質問があったそうです。その回答ですけれども、これまで30分以下は切り捨てだったのをことしの10月から分単位で記入するという改善をされたそうです。そうすると一般的に平均値、30分以下切り捨て、ゼロから30分までの時間がありますよね。その平均値15分と見たときに、月20日勤務したとして、土日別ですね、15分の20日で300分になります。そしたら、それが5時間で、これに基山に5時間上乗せした全体の上乗せになります。その改善は考えられませんか。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

一応県は0.5単位で記入するというふうになって、そういうものを例示してきましたので、

ですから、1日の合計は1.0とか1.5か、また2.0か2.5とか、そういう0.5になっていくわけですね。ですから、分でやっていくというのは今のところ考えておりません。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

基山と鳥栖は人事交流が盛んにあります。そのときに同じ数字が出たとして、実際は片方では本当は5時間月に少なかったんだと、実際は5時間多かったんだと、それがこういう形になるとまずい、鳥栖と同じような形にするべきではないですか。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

鳥栖との人事交流は多いといいますが、今、県全体で結構広域に動いていますので、県はほかのところはこういう0.5単位でやっている可能性、そういうところが多いと思っておりますので、県費負担職員の服務関係については、ほとんど県がそういう例示してきますので、やはりそれが一番公平ではないかなと思っております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

済みません、言葉尻を捉えるようですけれども、先ほど県の提示に対して後でどの学校もアレンジしたでしょうと言われましたけれども、そのアレンジが許容されるのであれば、基山も倣ってほしいと、ちょっとしつこく聞きますが。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

私は田代中を見ておりませんが、私は鳥栖中で最後勤めたんですが、枠はほとんど同じです、基山と。ですから、イメージとしては全く同じです。ですから、どういうふうにつくりかえているのかわかりませんが、そういう推測で恐らく自分たちが書きやすいようにやったであろうということを推測で御説明したところでございます。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

実態を正しく把握する、そして多忙化解消を少しでも推進するという立場で検討してほしいと思います。それともう1つですけれども、昼休み時間と持ち帰りの時間も鳥栖では記入できるようになっていますが、いかがですか。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

お言葉をお返しするようですが、私が鳥栖中にいたときは、持ち帰り時間は備考欄に書いていいですよということで書いてもらっていました。トータルで足し算する中には入れなくてですね。もう表にはエクセルで関数が入っていますので、数字入れたらだっと計算するんですね。その枠外にそれはありました。それから、昼休みのことにつきましては、何といいますか、突発的なこととかいろいろなことで昼休みがとれなかったという場合は、そのとれなかった時間については書いていいですよと、入れていいですよと、これは言っております。昔からそうです。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

何度も言いますけれども、鳥栖市ではことし10月から変更になった。だから、今後、基山でもそのことの検討をされていい方向に改善をお願いしたいと思います。

それと、この表で気になることがあります。一番下の医師等による面接を希望しますか、いずれかに丸印をつけるということで、（希望する）、（希望しない）、これは印刷で、そのまま希望しないに丸がついてあるんですよ。それはどういうことでしょうか。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

それは間違いです。ですから、何かシートをつくったときについたんでしょう。ですから、それは消して、お渡しするときも消してお渡しするべきだったと思います。失礼しております。それは間違いだと思います。実際にはそんな丸はついておりません。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

済みません、最後の質問です。指導要録のデジタル化、これは多忙化解消の右側の項目にはないですけども、9月に改善ということを言われていますが、来年4月からできますか。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

来年4月というのはちょっと難しいと思います。今、準備をしておりますが、予算を伴うことなんですね。ですから、今、準備段階で、早くいって来年度の末にいけるかというところで、これも確定はしておりませんが、そういう気持ちで準備を進めています。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

済みません、言われたことに何か反論したくなってごめんなさい。早くて来年末、だったら来年4月からその指導要録の記入は待っていいのですか。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

その点については何とも言えませんが、とりあえず従来どおりで記入するということが前提になるかと思います。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

多分1年生担任をしたときの仕事としては、夏休みの作業になるんですよね。ですから、ぜひ善処していただきたいと思いますが、予算を伴うと言われましたが、どのくらいかかるのですか。

○議長（鳥飼勝美君）

大串教育長。

○教育長（大串和人君）

私も正確じゃないんですが、概算で150万円ぐらいということをちょっと聞いております。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

財政課長、概算で150万円出せませんか。

○議長（鳥飼勝美君）

城本財政課長。

○財政課長（城本好昭君）

何でもそうですけれども、重要度から順位をつけてというふうになると思いますので、私、このことについては中身はわかりませんので、ここでどうということに答えることはできませんので、差し控えたいと思います。

○議長（鳥飼勝美君）

大山議員。

○8番（大山勝代君）

町長、よく聞いてってください。ありがとうございます。終わります。

○議長（鳥飼勝美君）

以上で大山勝代議員の一般質問を終わります。

本日、予定の一般質問は終了しました。散会いたします。

～午後3時30分 散会～